

陽法
類

味父の世
上
方竟千梅



序

世仁稱俳諧活法者多志其中仁
 負德翁乃御傘最可信者也然
 砥裳被御傘波遐兮俳諧權輿乃
 者奈禮波言至天些志故仁增補



乃上

序

之勢留活法乃書々繼出天行レ世

其記中或者季節乃混雜勢留

者或者不詳出所者上天俳子不

得其意採不堪為式也正至謂

蕉門乃式天波取捨尤多御傘

砥店裳世氣味仁波難用サレハ雨則流布

活法乃書仁所遍載年中行事

國々乃神事天象華鳥艸木菜

菓四時乃景物也テラヒ採閱之ミルニ固難

解事不少且至世談平話乃語

天波粗下不通シ風土乃俗談中涉事

物乃方言上喻謂有史漢乃才砥裳

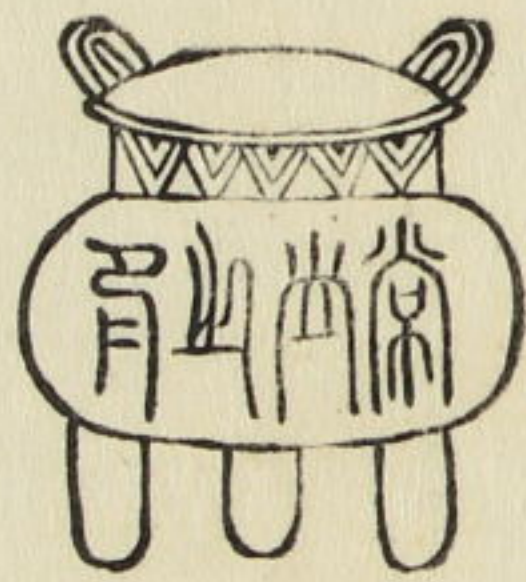
上

序

恐不辨別者多志予年來為初
 學門人有選集其不解天書記
 反古乃端置者上今錄左此書題
 篋ワクカセ纒カ輪ト者波謂ウリ繰カ分ト其素カ絲ラ據
 女工乃具天為名焉而已

于時寶曆第二壬申仲春

方竟老于梅誌



十ノ上

雙蘊輪 卷之一

方竟千梅選

活法之書四季詞寄内名目而已
出ラ難辨物或ハ註書有テ年記等
不詳混ノ不分明物悉記焉

正月

一四方拜 元日寅ノ時天子自^臨天地四方拜山陵^ヲ實
祚^ヲ祈玉^ニ當年ノ本星^ヲ唱^テ年災^ヲ祓玉^ヲ其
起^リ公事根源^ニ人王三十六代皇極帝雨ノ御祈^ニ
和州南^ノ河上^ニシテ天地四方^ヲ拜^シ玉^ヒケレハ
雨五日^ニテ降^{ケル}トナシ是ナト^シヤ四方拜ノ始

コト

コト

申へキナラント云々

一 元日節會 群臣賜酒肴宴會アルツイツ不

限節會ト云しサル中ニ元日ノ節會ハコトニ嚴重

諸司ノ奏氷ノ様腹赤ノ御贄七曜ノ御曆ト云コトアリ

○ 氷ノ様ト云ハ去冬所ニノ氷室ニ藏タル氷ノ至テ厚

コトヲ奏スルハ氷ノ厚キハ豊年ノ祥瑞ナルハシ

○ 腹赤ト云ハ鱒ノ魚シ人王十二代景行天皇熊籠

追討ノタメ周防豊前日向ニ至リ玉フ時肥後ノ国

宇布濱ヨリ鱒ノ魚ヲ献ス是ヨリ毎年元日ノ

節會ニ献之^ツ則腹赤ノ御贄ト云是シ

○ 七曜ノ御曆トハ日月火水木金土此七曜ヲ註スル

曆シ中勢省ヨリ献之^ツ此ニツノ事ヲ奏シ上ル^ツ
諸司ノ奏ト云し 以上公事根源ニ出

一 国栖奏国栖笛 是元日ノ節會ニ和列吉野ノ奥国

栖ト云所ノ者毎年春内シテ歌ヲ諷ヒ笛ヲ吹テ

如吉例ノ年始ニ奏リタリト云コトヲ奏シ上ル^ツ是

應神天皇十九年ニ始ルト云々

一 齒固 元日典藥ノ頭御藥ヲ供ス時ニ先御厨子所ノ

御齒固ヲ供スト云々、齒ハ人ノ齡ナレハ齡ヲ固ル義シ

トソ一ノ臺ニ餅大根橘ヲ盛り献之^ツ此餅ハ近江ノ

火切リノ餅ヲ可用ト源氏初音ノ卷ノ註ニミエタリ

一御藥トハ一献ニ屠蘇ニ献ニ神明白散三献ニ度
嶂散し三ヶ日共ニ供之ツ而ノ三日ニ右ノ三種ニ
又タウヤクシテ献ス是千瘡膏ト云膏藥シカウ
ヤクト云名目ヲ忌テメウヤクト称ストソ御額及
御耳ノ裏左リノ御手ノ掌ニ塗之ツ玉フト云ニ

一牟德神 其年ノ元方ヲ主^{ツカヒ}神シ俗家元方ニ新タニ
構^ツ棚^ツ備^エ餐^シ夜ハ燈明シ元日ニ祭之ヲ卯ノ日ニ至テ
其棚^ツ止^ム此神陰陽家ノ説頗利才女^シ則
牛頭天王ノ妃ト云、頗利才女ノ社ハ高辻通室
町ノ西ニアリ神書ニ是稻田姫ヲ祭ル神宮ト云リ
洛東祇園牛頭天王ハ素盞盞鳥ノ尊ニシテ稻田姫ハ

則其妃シ然レハ陰陽家ノ説ト神書ノ説其云フ
所ハ異ニシテ意ハ一致シ

一毘沙門ノ功德經 昔元曉ニ陰陽師都下家ニノ門ニ
高声ニ其功德ヲ唱フ大畧佛說毘沙門天王經ノ
金銀無盡福德壽命無量ノ説ヲ述ニ似テ後ハ
信語ニ當時目出度コトヲ集メ云イ立シ一説ニ先
禁裏日華門ノ外ニ来唱之ツ後都下ニアリキ
シト云、今ハ凡テ絶テナシ

一若惠美酒 是江戸ニテ福神雙六ヲ賣コトク元日
夷ノ像ヲ^{エカキ}画タルヲ京師ノ家ニニ投テ初尾錢ヲ

取レシ近キ頃ニテ有レカ近年ハ絶テナシ

一懸想文賣ケサウブ

是モ陰陽師赤キ袴ニ立烏帽子シテ
女嫁スヘキコトナントシ祝シ記シテ元日寅ノ時ヨリ
京師ノ町ミツ賣アリキシ是等ノコト今ハ皆絶テ

一船魂祭フネマタヒ

元日船ニ松飾シテ其神ヲ祭ルシ船ノ神
本朝ニテハ猿田彦ノ命則船玉ノ命ト称ス歌ニ幸サキ
玉トヨミ手向ノ神ト云モ是シナラ神祇ノ則ニ委記

一淑氣

早春ニタツ一氣シ千門淑氣新シト詩
ニモ作レリ

一押鮎

貫之土佐日記ニモ元日ノ朝ニニエテリ昔元日
コレヲ祝食セシニコソ年魚ノ名ヲルモ此故ナラン

一謡初

當世效オラツテ上ニ二日三日ニ始之ヲ依テ元日ノコトニ
ヲラスト思ヘリ藏用湯殿始テ始船乗初キジ著
始商始謡初等皆元日ヨリ始之コトコトシ

一ヒメハシメ

梁塵秘抄ニ正月始テ於馬場殿ニ馬ヲ
騎ルヲ飛馬始ト云ト云ニ
持弓馬場ノアシタノヒメ始是ヲヤヌノ名ニ違カタフラン

一水カケノ祝イヰ

去ル冬新タニ妻ヲムカヘタル男ニ水ヲ祝フテ

ワカ上

ハ

友達相催モホシ酒肴ヲ携其家ニ至リテ水ヲ祝ヒ浴
セルし是モ元日ヨリノ事シナク戀ノ部ニ委記ス

一ツサガリ 三ケ日ノ雨ヲ云 御降サガリシ

一イ子ツム 寢ルシ イ子アグル起ルシ 三ケ日ノ寐起ルヲ云

一若水 立春シ近來歳且ニ用レ之ツ甚ク不吟味シ能
學ニ深切ナラヌ故シ公事根源ニ立春朝主水司献之ト云

一初子ノ日 初ッ春ノ初子ノケフノ玉簾ナント云歌アルニ
ツキ是モ歳且ノ部ナト心得タル輩アリ不宜ク此

歌ノコトハ十一月豊ノ明リノ下ニ委記ス 初子ハ正月上
子ノ日シ凡テ子ノ日スト云フハ原野ニ遊ヒテ若菜ヲ
摘ミ小松ヲ曳ツ云シ是正月ニモ不限 圓融院ノ紫野
御子ノ日ハ寛和元年二月十三日 源氏若菜ノ卷
子ノ日ハ正月廿三日シ然レハ初子ノ日只正月ノ季シ

一初寅參 番卸フケ 正月上ノ寅ノ日浴ノ貴賤鞍馬寺ニ

詣ルコトシ是ノ日鞍馬ノ山人ヒカキ燃石ヲ賣ルニ參詣ル
道端谷ヲ隔テタル高キ岡ニ小屋ヲ造リ居リテ其小屋
ヨリコナメノ岸キ岸エ網ヲ引ハ其網ニ小番ヲ付テ
待テ參詣ノ諸人錢ヲ番ニ入レハ則チ番ヲ引上ケ錢ヲ
取テ其代リホトノ煙石ヲ入レ番ヲシテロス是ヲ鞍馬ヲ

番卸ト云フ甚タ真フルコトシ

一 卯杖 上ノ卯ノ日大學寮ヨリ獻之ヲ御杖ト称ス
精魅ヲ追御杖シ持統天皇三年ニ始ルトソ

一 節振舞 正月親族相互ニ酒肴者ヲ設テ會合スル
ヲ節ト云是禁裏ノ節會ニ倣テ云リ常ノ會
合ニハ此言ヲ用ヒサレトモ年始ヲ祝シテ下民モ
其言風ヲ唱ルシ

一 愛宕寺天狗宴ツタギ 二日浴東六波羅ノ愛宕寺一名
珍皇寺ト云清水坂ノ弦刺共此寺ニ會合シ太鼓ヲ

打酒宴ス是當年祇園會ノコトヲ定ムルシ俗是
ヲ天狗宴ト云清水坂ノ弦刺ハ大神人ト云テ祇園
ノ社ノ使令ニテ神輿昇ルツルメソト云訓ハ弦召
ノ訛言ニトソ刺強ラ作咎ラ敗之ヲ賤業ノ者ニ

一 裏白連歌 三日北野ノ社司松梅院ニテ毎正月真
行ノ連歌シ中古執筆誤テ初面ノ次ヲ白紙ヲ
置テ書リ其誤流例ト成テ今ニ其片面ヲ除キ
書ス依テ裏白ノ連歌ト云

一 叙位ツギイ 五月諸臣ニ爵位ヲ賜コトシ三十四代推古
天皇ノ時十二階ノ冠位ヲ行ハ今ノ爵位ハ替レシ

品ナレト是其始トツ

一千壽万歳 エヒスハシ春駒 猿引 鳥追等活法ノ

書ニ三ケ日ノ間ノ取ニ記セリサレトモ是ニ差別アリ

先万歳鳥追ハ今世ノ風信トシテ三ケ日ノ内ヨリモ

来レハ其分ナルシ年中行事ニ曰正月五日禁庭木造

始ニ是日千壽万歳并ニ猿舞等東ノ御庭ニ来

ト云ニ採^テ用^テ之ヲ猿引モ爰ニ出セリトニエタリ凡ソ

猿引ト云モノ常アルモノナレハ右禁庭ニ参リテ祝

舞セル向ナレハ正月ノ季只其名目ハカリハ無季ニ

エヒスハシハ傀儡師ニテ舞^{ハシ}或^{ハシ}テグツト訓ス是

又三ケ日ニ極リタルモノニアラス春駒モ只正月ノ

季ニ白馬ノ節會ノ下ニ記

一白馬ノ節會 御弓奏 是ツアツムノ節會御ツメラシノ

奏ト讀習ヒトソ馬ハ陽獸ニシテ天ニ白龍アリ地ニ

白馬アリト云本文アレハ正月七日白馬ヲ見年中

邪氣ヲ除クトテ今日白馬 觀覽ニ仁明天皇永和

元年正月七日白馬 觀覽ノコト古記ニニエタリ

青キハ春ノ色ニシテ至テ白キモノハ青キニ依テアツム

ト称ス又弓ヲメラシト云ルハ天竺ノ貝多羅葉^{ガイタラ}長

七尺五寸アリ 摸^{カキ}之^ツ 弓長モ七尺五寸ニ依ラタラシ

ト申ニヤト云ニ 以上公事根源ニ出 為家卿

嵯峨ノ山雲井ノ春ニヒキ初テツユスモ今日ハ渡ルアツム

信春駒ト云テ馬ノ形ヲ頭ニ載シ謹シ舞ヲモノアリ是此
白馬ヲミルコトヲ摸セル餘風ナラシト云ニサモ見レシ

一人日 七日ヲ人目ト云フハ元日ヨリ六日迄ツ六畜ノ目ト
シ七日ヲ人ノ目トス六畜ヲ先ニシテ人ヲ後ニセルハ賤
モノハ易ク生貴クモノハ難ク育トシテ人ヲ重シクスル
意シトソ 元日雞 二日犬 三日羊 四日猪 五日牛
六日馬 七日ヲ人目トス 以上荆楚歲時記ニ出

一供若菜^ス 上ノ子日内藏ノ寮并内膳司ヨリ奉レ之^ツ寛
平年中ニ始ルトソ或ハ十二種ノ若菜ヲ献ストモ有
サレトモソレハ當世論スルニ用ナシ公事根源ニ延喜十

一年正月七日七種ノ若菜ヲ供スト云モノナツナラハ
苜苢^{アツナ}ゴキヤウス、シロ^{シロ}仏ノ座ト記セリ此七種ノ菜
羨^シ食スレハ万病ナシ又邪氣ヲ除ク術侍^ト三エ
タリト云ニ右七種ノ菜^{サイ}苜苢^{根白}蘿蔔^{ナツチ}
鼠麴^{ゴキヤウ}ハコ^{ハコ}薯蕷^{ハコヘ}佛ノ座^{一名田平子}ナ松^{スナギ}
常ノナシ^{常ノナシ}蘿蔔^{ハコ}大根^{ハコ}七種ノコト説ク多シ然レトモ
公事根源ニ載ス取正説トスレ今京師ニ用ルモ則是^歌
苜苢^{アツナ}ナツチ^{ゴキヤウ}ハコ^{ハコ}ラ^{ハコ}仏ノ座^{一名田平子}シロ^{シロ}是ソ七種
然^シゴキヤウ^{ゴキヤウ}田平子^{田平子}仏ノ座^{一名田平子}ト唱エテ田平子^{田平子}ト仏ノ座^{一名田平子}ト別
シトスル説有尤三才圖會大和本州等ニモ別物トシテ
其圖ヲ出セリサレトモ其仏ノ座ト別ナル田平子ハ七種ノ
菜^{サイ}ニアラス其故ハ公事根源及和爾雜等ノ七種ニ

田平子ト云物ヲ不出サシ以テ可知サレハ七州ノ菜ニ用
田平子ハ仏ノ産ト同物ナルコト明シ

一エクツム 甘菜 エゴトモ 白苣 カニクサ 似テ蔓生ノ小竹シ生
水辺ニ紫赤色ノ花アリ 藻塩艸ニエゴハ苣ノ異名
トモ云リ又フツワカシト云ハ則チ若菜ヲハヤスツム
福涌ノ祝語ナルヘシ

一落蒿 ハキツム ヨメカハギシ畿内ノ甘言何ノウニモスヘテ
御ノ字ヲ冠ラシム依テツレニ混シテ江東ニテ只
ハゲツムト云リ歌ニツハキト讀リ
今日ハ待テ雪間ノツキヲ摘メセテ野辺ノ若菜ノ數ヲ増之

是ツヨメナト云ハ諸国通号シ秋淡紫ノ花ヲ開ク
花葉トモニ野菊ニ似タリ依テ野菊ニヨメカハキノ
訓ツ付タルアリ甚タ誤シ別物シ

一菜摘川ノ神事 七日 和州吉野シ

一箕面 ミノヲ 富突 トミツキ 八日 朝寅刻 横列豊嶋郡箕面山麓
安寺辨才天ノ富シ 諸人此富ヲ突テ天福ヲ
祈ルニ其應響ノコトシト云ニ

一真言院 御終法 八日 於禁裏ニ終セラル国家安全
御祈禱シ年替ニ胎藏金剛ノ終法アリ永和

元年空海始行_ル之_リ時 宮中ニ真言院ヲ申立
テ_ル依テ此名アリト云_ニ

一御齋會 八日 大極殿ニテ最勝王經ヲ講セシメ玉フ
是又朝家護持国民豐饒ノ御祈禱_シ天平元年始

一女叙位 八日 宮女ノ位階ヲ進メテ_ル日_シ隔年_ニ行_ハ之_リ
此日天子出御ノ御傍_ニ東童_ト云_{アリ}内侍
司ノ被官_シコレニ必_ニ三ツ子ヲ選_ヒ用_イ玉フト云_ニ大_リシ
テ_ハ小_リシ_テ切_ル申_文ナト云_事アリ有職ノ秘決_シ

一女王_ニ錄_ヲ賜_ハ八日 皇女皇孫_ニ内親王_ヲ宣_下ナキ_ツ女王_ト
云_四世以下ハ命婦宮人_ニ准_スト云_ニ 只王錄_ト讀_習ク

一大元帥ノ法 八月ヨリ七ケ月ノ間毎正月 治部省_ニテ行_ハ之_リ
是天子ノ御衣ヲ加持サセシメ_ラル_ル 秘法_シ昔小栗_ヲ
栖_スノ常曉律師入唐_シテ此法ヲ傳來_ル承和五年
ノコト_シ其後_ニ齊衡ノ頃天下大旱_セシ_ニ神泉苑
ニ_レテ此法ヲ修_セラ_ルニ自龍忽現_シテ雨_ヲ下_ス甚_ク
秘法_シト云_ニ是モ帥ノ字_ヲ不讀 大元ノ法_ト讀_シ

一外記ノ政始 外記ノ官ハ恒例臨時ノ政ヲ執_リ行_フ
官_シ依_テ先當年ノ政ヲ行_ヒ始_ルシ其日ハ不定
大方ハ九月_シト云_ニ

一夷祭

十日

此社挂別安倍野ノ北ニ在祭神蛭兒

大神宮天照太神素盞盞鳥尊三座ノ毎正月十日
祭テ之ヲ貴賤成群ヲ倍十日夷ト云俳諧十日
夷トシテテ正月ノ季勿論シ

一魚上氷

立春ノ候シ

瀬祭魚ヲ

雨水ノ候正月中シ

トモニ

禮記月令ニ出

一男踏歌

アラレハシリト云

十五日

夜分シ源氏物語ニモ

取、踏歌ノコトヲ載タリ京家ノ遊人ノ声ヨク物詠
ヲ召ツドヘテ年始ノ祝言ヲ文ニ作り詠ヒ舞ハシメテ
コトシ天武持統ノ頃ヨリ始ルトミエタリ是ヲアラレハシリ

ト云ハ踏歌ノ歌曲ノ納メニ五年アラレト云祝言ヲ以必
詠イ納メ依テアラレ走リノ名アリトソ今世目出度キ
コトノ大尾ニ万歳樂シ詠フト同意シカサレノ綿ト
云ハ此夜踏歌ノ者ニ絹白布綿ナントシ賜フ又
綿ヲ以テ花ヲ造リ冠ノ額ニツク是シカサレノ綿ト
云シ皆往古ノコトニシテ今ハナシ今ノ世ノ万歳ト云
モノ此遺風ナラシト一茶禪問ノ世該問答ニ書記シ玉ヘリ

一綱曳

十五日

大キナル經一條

スキニ大勢取付キ雙方エ引アヒ

勝負ス京童ノ正月遊シ

一小豆粥イハフ

十五日

宇多ノ天皇寛平年中始献之ト云ニ

此御粥モ七種ノト九条右丞相ノ御記ニミエタリ
白穀大豆小豆粟栗柿豆エサケトノ紅調粥ト
云モ此七種ノ御粥ヲ云ナルヘシ

一平岡ノ御粥 同十五日 河内国平岡ノ神前ニテ赤豆粥ヲ煮
テ其年ノ農事ノ吉凶ヲ占フコトシ平岡ノ神社 天兒
屋根ノ尊 鷓鴣羽ウキアハセス尊不合尊 大國主尊 栲幡千
姫ノ命 以上四座ニト云、

一粥ノ木 粥杖同物シ 清少納言ハカユノ木ト書 大貳ノ三
位ハ粥杖ト書リ 枕巾紙ニ曰 十五日粥ノ木引カリシ
伺ウカガフヲ打レジト用意シテ後ノチツ心ココロツカヒレタル氣色モシ

カシト書リ 大貳カ狭衣ニハ若キ人ニニ友カシコニ群
居ツ、シカシケナル粥杖引カリシツ、カタニ伺ヒ又
打レシトシタルスニヒ思ハクトモ、各ヲカシト云、此杖ニテ
打レタル女ハ男子ヲ孕ムト云コト 往古ヨリ云傳フコト
トミエタリ 則狭衣ニ曰 大將殿 ミタニヒ凡ソレヲ集ツリテ
ウテサラバソ 誰モ子ハ設ケンニコト 驗アルコトナラハ
イトフモ念シテ有ラシナト宜タマハ 皆打笑ヒタリト云、

一御薪ミカキ 昔百官悉薪ヲ宮内省ニ献シタルコト 延喜式ニ
載タリ 天武天皇ノ御時ヨリ奉之ツ 正月十五日ニ
按シ東土ノ俗 薪カキヲマキト云リ 薪ノ上略カ又粗割アラク
タルヲタキ、ト云イ 小細ナルヲツマキト云 然レハツマキノ上

略ナランカ何レニ畧語トミエタリ

一三毬打 十五日 令禁庭ニハ其故有テ十九日ニ行ル加茂
神前ノ三毬打其外畿内皆十五日ニ左義長ノ由
未説、アトモ畢竟焼竹ヲ陰邪ノ氣ヲ祓フナリ
又爆竹ト云モ爆ハヒバント訓テ焼竹ヲ火ノ音ニ
其響ヲ以テ疫氣ヲ祓退ルニ唐土ニハ時ニニ爆
竹スト荆楚歳時記等ニミエタリ

一獅子頭ノ神事

十四日ヨリ十七日ニ至伊勢外宮ノ御神事ニ

一厄神参リ

十五日ヨリ十九日ニ至城別八幡ノ厄神ニ都

鄙ノ男女群参ス此日ヲ女節分ト云毎十二月晦日
京師ノ信吉田ノ厄神ニ参リテ厄ヲ祓フ大晦日
カミヒスシケレハ婦女ハ不詣依テ此ハ幡ノ厄神詣
大晦日ニ易趣意ニテ女節分ト云

一賭弓^{ユミ}

十八日天子子場殿ニ御幸アツテ弓ヲ射觀覽ナリ

左右ノ近衛左右ノ兵衛四府ノ舍人射之ヲ大將
射手ヲ奏セラル勝ノ方ハ舞樂ヲ奏ス負ノ方^{ユミ}罰
酒ヲ賜フ甚タ真ニ事ハテ、後射手ノ搥人数ニ大
將饗^{アヒ}シタマフ是ヲ賭弓^{ユミ}ノカヘリ饗^{アヒ}ト云シカヘリ
饗^{アヒ}シ玉ハ又大將ハ當時ノ参内ヲハ、カリ玉フト
云ニ

一吉田ノ清祓 十九日ノ夜神樂園ノ社ニテ祓アリ京師ノ
貴賤群叅ス社ノ西ニ火振り坂ト云アリ此夜叅
詣ノ諸人炬ヲ振立ルニ依テ此名アリトソ

一御忌 十九日ヨリ廿五日ニ至ル法然上人ノ御忌シ淨土一派ノ
諸本寺皆従行ス之ヲ中ニモ智慧院ノ御忌甚ク大會シ

一水入菜 菜ノ字ハ菜蔬トツキテヤサイノ搃名シ正字
菘ニ種甚多シ夕カナウキナ白ナ赤ナ
冬ナ鶯ナ水菜等シ京師ニ作ルモノ畑ノ
畦間エ水ヲ湛エテ作ル故ニ水入菜ト云トソ洛下
東寺辺ヨリ專出之ヲ冬ノ景物シ

一辭木 或書ニヒコハエト云ハ艸ニアルモノニアラス木ノ切
株ヨリ細キ芽ヲ生スルヲヒコハエト云ト記セリ此説
宜キナラント思ヘリニ新古今曾根ノ好忠ノ歌ニ
アラフ小田ノ去年ノ古根ノフル蓬今ハ春辺トヒコハエニケリ
是蓬ノヒコハエシ然レハ艸木トモニ藪ノ名目アリ
短オニシテ物ヲ正シ論スマレキコトシ

一菠薐菜 本艸及其外ノ菜蔬史皆此三字ヲ用然レニ活
法ノ書ニ菠薐ノ二字ヲハウレント讀セタルアリ不冝トソ
菜ト薐ト字義不通薐ノ字ヲ略シタルモ不可ト云ミ

一野大根 相州ノ波多野大根 江戸ノ倍ハタナト称ス撰別

天滿ノ細根大根是也早春專出之ヲ元ト野生ノ物也

一百千鳥 又呼子鳥等活法ノ書ニ出シテ只春ノモノト心得俳諧ニセヨト云説ハ他門ノ沙汰也蕉門ニ傳受ナキモノ句ニスル事不赦之ヲ百千鳥呼子鳥 稻負鳥ハ古今集ノ秘史也傳受モセサルコト句ニ作リテ如何ソ心通スヘキ何ノ詮ナレ無用ノヨレ古翁句合ノ判ニ禁メラレタリ蕉門ノ俳士可得其意ヲ

ハコ鳥 古書ニ呼子鳥ノコトヲ辨シタル中ニ山中ニ鳥アリ其声人ヲ呼ガ如クハヤコノト鳴ケリハヤコハ早來也

是則呼小鳥也ト云リ万葉ノ抄ニモ此趣ヲ記セリ歌ハ宮ノ縁語ニヨリテフタ村山或ハフタカミ山等ニ讀リニ村ノ山ノ端シラム東雲ニ明ケスト告ルハコ鳥ノ声春サハ友ニトハセルハコ鳥ノニ上山ニ朝ナノクナク然ルニ活法ノ書ニ果鳥ト書ケル心不解 按ルニ早小ノ二字書損シチニマリテ果ノ字ト成タル板ノ誤ナラシカ

一木地ノ爐縁 茶人用爐縁ニ爐用ヨリ冬中塗縁ヲ用ユ春ニ至テ木地ノ縁ニ仕替ル也茶人曰春ハ陽氣強ク爐ノ内ヨリ白灰ヲ吹上故ニ塗縁ニカ、リテ見苦ク依テ木地ノ縁ヲ用ユ是茶道ノ故實也他説モ有ト此説宜シト云ミ

一佐保媛 竹木ノ發生凡テ春氣ヲ主^{ツキル}神^ル也或書ニ年
德神ノ一名ト云リ尤サモアルヘケレトモ俳諧ニハ其意
別シ年德ハ神祇也佐保媛ハ神祇ニモアラス

一于鱈 春季トスルハ此^{ホシク}鱈^ク早春京師ニ多ク来リ畿内
江東ノ販^{ヒナリ}市^ニヲ以テシ他州ニテハ季トスヘカラス
畿内ニ用^ル之^ヲ句ナラハ春季トスヘシ

一山椒皮 是又若別丹別ノ辺ヨリ春京師ニ多ク出ス
故ニ京倍音物等ニシテ賞^レ之^ヲ依テ季トセリ其
名目ハカリハ無季ト心得ヘシ

一霞ノ洞トハ 院ノ御所仙洞ノ御事也 不得^ハ其意^ヲ
謾ニ句ニスヘカラストソ

二月

一初午 是ノ日稻荷ヲ祭ルハ諸国年中行事ニ曰人皇
四十三代元明天皇ノ御宇二月十一日午ノ日
此倉稻魂ノ神浴東稻荷山ニ影向シ玉ヲ依テ令
世ニ至リ此日ヲ祭テ稻荷ニ詣ストソ本朝神社
考ニハ此神社ノ起リイツノ頃ト云コト不詳ニセ和銅
年中始テ現ニ伊奈利山ニトモ又相傳フ空海大師
東寺建立ノ時門前ニテ檐レ稻逢翁ニ即祭テ之
東寺ノ為ニ鎮守ト云ニ

一東福寺ノ懺法セシホツ 上ノ午日觀音三十三身ノ像ヲカケテ
法華センホウヲ行フ

一水間寺ノ初午 泉別シ人皇四十五代聖武天皇二月初
午ノ夜冥夢ニヨツテ行基ニ命シテ和泉国ノ山中
救世大士ノ冥像ヲ得玉ヒ此寺ヲ開基シ玉ヲ依テ
今世ニ至リ初午ノ日ヲ縁日トス其余ノ初午ニ觀
音詣倣之ト云ニ

一釋奠 上ノ丁日 大學寮ニテ行ル之ヲ孔子及十哲ノ影
祀ル 上卿ハ巾納言 文章博士 孝經 禮記 毛詩
尚書 論語 周易 左傳 年廻リニ講之ヲ 文武
天皇大宝二年ヨリ始ル 釋奠ト云ル字義ハ禮記

釋菜ヲ奠幣ヲテ先師ヲ禮スルト云ニ

一春日祭 上ノ申日 和列春日大宮ノ祭ニ勅使アリ
清和天皇貞觀元年ニ始ル

一園ソノカラカミ韓神祭 上ノ丑日 帝都守護ノ神ニ醒サマ井ガ通高
辻ニ社アリ京俗本ト荒神ト云上古大内裏ノ時
宮内省ニ在トソ祭ル所ノ神園神一座韓神
一座ト書クニニエタリ然ルニ本朝神社考ニハ園
神一座韓神二座以上三座ト記セリ十一月
丑ノ日モ祭禮ニ諸神記ニ園神韓神トモニ
道祖神ト云ク

一大原祭 上ノ卯日 春日大明神ニ和列春日ノ社ハ
帝闕ニ遠レ故ニ小塩山下大原野ニ移レ之ヲ帝
都守護及后妃夫人参詣ノ夕人ト云ク文德
天皇に壽元年ニ始ル

一吉野ノ餅配リ 朔日 高筭上人ノ影堂ニテ花供
儀法ヲ行フ則上人始レ之ヲ花供粮ノ餅ニ

一二月堂ノ行ヒ 朔日より至十四日 南都東大寺ノ諸堂ノ
内ノ大堂ニ本尊觀音 毎二月大法會ヲ修レ靈
符ヲ出ス世ニ二月堂ノ牛王ト云是レ此法會ノ内
七日ヨリ十四日新ノ能アリ 天晴名夜興福寺南

大門ノ芝ノ上ニ如山ノ積薪ヲ燒之ヲ其焰光如昼
今春金剛室生、三座年廻ニ上浴シテ勤之ヲ諸
人群集、見物ハ腰掛ヲ後高ニシツラヒ見之ヲ南
都ノ衆徒ハ帽子ヲ被半臂袴ヲ着シ立テカラ見之

一二月堂水取 七日 古翁二月堂ニテ水取ヤ氷ノ僧ノ

沓ノ音是春句勿論シ然ルツ冬句ト覺エタル輩
ニ、アリ俳學ニウトキ故シ二月堂ノ前ニ石井有甚
淺、常水一滴モナシ二月堂行法ノ内朔日ヨリ七日ノ
間加持修法シテ井ニ向テ若狹くト呼フ時石井ニ
忽清水涌出ルコト添ニ濤ニタリ是ヲ以テ硯ノ為
氷ト彼契符ヲ印ス古今奇トス是若狹國遠敷

大明神ヨリ二月堂ノ觀音ニ獻セシメ玉フ水トシテ
代ニ國史等ニ載ス

一鷹化鳩成 啓蟄ノ候二月ノ節ニ禮記月令出

一遺教經會 九月ヨリ至十月 浴西千本通瑞應山大

報恩寺ニテ行_フ之_ヲ 倍千本ノ釋迦堂ト云是ニ東山
智積院ヨリ衆僧来リ此法會ヲ勤_ム 昔奥列秀衡
此寺ヲ再建ス秀衡上浴セシ時ノ車ノ輪ト云モノ
當寺ノ什物シ

一列見 十一日 是六位以下、藝アル者ヲ上卿ラシテ令選

之^ヲ玉^ラし式部省兵部省ヨリ 卒^{ヒキヒテ} 参^ルヲ召寄テ
其器量容儀ヲ見^ルし其職ノ公卿各大政官ニ出^テ
行^ル公事^シ其官位ニ依テ冠ニ花^ヲ挿^{サシ}是^ヲカサシ
ノ花ト云^シ

一 嵯峨^ノ柱炬^ノ クイニツ 十五日ノ夜清凉寺 釈迦堂ノ前ニ二丈ハカリ
大炬^ヲ三^ツ立テ火^ヲ懸^テ其燃^キ立半^ヲ打倒^ス クイニツ 松明
ノ燃ヤウ倒^レヤウニテ農家ノ幸不^ク幸^クヲ占^フシ

一 興福寺ノ常樂會 十五日 涅槃會^シ

一 積塔^{シヤクダウ} 十六日 座頭ノ行^ヒ 每二月浴ノ高倉綾ノ小

路清壽庵ニ座頭會^{シテ}十宮神ヲ祭^ル是往昔
光孝天皇ノ皇子雨夜ノ親王盲人ナリシカ覺^{シテ}後
諸ノ座頭其墓ニ毎年積^テ石^ヲ吊^ヒ祀^ヒ遺風^シ
トソ此會ニ諸国ヨリ座頭上浴^{シテ}位階^ヲスム

一 圓宗寺ノ最勝會 十九日ヨリ廿三日ニ至 今此會式絶^テ寺ト云^ヒ
ナレ漸^ク御室 仁和寺ノ境内ニ其寺跡トテ名^ノ殘^{レリ}

一 淺間祭^{センケン} 廿日 是^ヲ活法ノ書ニアサニ祭^ト云^ヒ不宜^ニ駁^ス
別府中ノ淺間祭^シ本宮新宮ニ社^シ九吉田口大
宮口踏^ス走^リ口皆淺間ノ神ヲ祭^ル其中ニ府中淺間
大社^シ木^ノ花開耶媛^ノ命^シ 瓊^ニ杵^ノ尊^ノ妃 又神社考^ニ
大山祇^ノ命^ノ母

記セル富士淺間ノ説ハ甚々奇異シ事繁ケレハ畧ス

一 天王寺聖王會 廿二日 聖德太子ノ御忌シ石ノ舞臺ヲ
伶人ノ舞アリ其式甚々嚴重シ

一 比良ノ八講 廿四日 山上ニ天神ノ社アリ比良大明神觀音
ノ垂跡シ其法樂トシテ山門ヨリ衆僧至テ八講
修行セシ今世絶テ其名ノミ人知之ヲ

一 北野ノ御忌 廿五日 吉祥院ニテ八講行ル管家ノ人ニ
叅集ノ被_レ修_レ之ヲ 吉祥院ハ管家ノ氏寺シ管丞
相ノ祖父清公ノ建立シ此會式ハ天仁二年ニ始行ルト

云々又西ノ京ノ神人ヨリ菜種_{ナシ}ノ御供ト云フ備フ
夜京俗成_レ群ヲ

一 道明寺祭 廿六日 河内国シ同ク天神ノ御忌シ管公

伯母覺奇尼公ノ居宅今尼寺シ左遷ノ時名殘ノ
御對面アツテ一宿シ玉フ其別ニ及ンテ
鳴ケハコソ別_レシインケ雞ノ音ノ聞エ又里ノ曉モカナ
ト詠_レ玉フトソ依テ今世ニ至リ此里ニ雞ヲ不_レ育ト
云々天神真作ノ御像アリ名物ノ糰_ハ當寺
比丘尼ノ手業シ

一 季ノ御讀經 吉日ヲ撰_ニ紫宸殿ニテ大般若ヲ修_セ

フル四ケ日ノ間ニ僧ニ茶ヲ玉フコトアリ是ヲ行茶ト
稱ス上古ハ季毎ニ行レトソ後ニ八月ニ成聖武帝
天平元年ニ始ルト云々

一時宗踊念佛 寺町五条西入御影堂 新善光寺ニテ修之ヲ

一春ノ鷹 佐保姫鷹ヤホダカトモ云春神ノ氣ヲ受タルト云テ
佐保鷹ト云トソ白尾縹尾ト云ハ凡鷹ハ冬氣ノモノ
ニテ春ニナレハ山ニ帰ル氣アリ依テ春鷹ヲツカフニハ
白鶴ノキミシラズト云羽ヲ以テ鷹ノ尾ニ縹キテツカ
フシ己カ尾ノ白キヲ見テ雪中ノ心有テ山ニ帰ル心ナカ
ラシメン為シ依テヨク遣ハトシ是鷹匠ノ故實ト云々

一キ、ス工鳥 鳴鳥狩 泊リ山 泊リ狩 皆雉子狩ニ前夜其
鳴取ヲ能ク聞スエテ翌朝行テ狩ルニ依テ朝鷹トモ
朝待トモ云俱ニ春ノ雉狩ニ

一魚鳥 カホヨトリ 八雲御枘ニ鵜鳥ト出タリ雉子ニモ
山鳥ニモ畫眉鳥ニモセヨ魚ヨキ鳥ト云コトニ師傳
ナキ作者魚ヲ賞スルコトヲ不知雉子ナト、心得テ
馬ヲ賞シテ句ニ作レル輩ニ、アリ

一松毛鳥 京師ノ小鳥肆ニテ尋ルニ適アリト云菊イタ、キ
類ノ小鳥ニ甚殖ヤスクレテ籠ニ難ニ月トソ
深山木ノ雪フル葉ヨリウカレキテ軒端ニツタフ松毛哉

是藻塩州ニ出タル歌ノ予例ニ春旅行スルニ東ニ河
ヨリ遠列路ニ至テ並木ノ松ニ蝉ノ声ノ如ク喧ク鳴
クノアリ擔夫ニ問之ヲ松ムシリト答フ袋井懸
河日坂ニテノ間殊ニ多シサレトモ是ハ鳥ニアラス虫
藻塩州ノ歌ヲ考ルニ菊イタ、キ様ノ小鳥
云モノサモアランカシ

一 鶯ノ琴 此鳥鳴時ニ声ニ頰テ両脚ヲ互ニアケテ
琴ヲ彈スル者ノ控手ヲカコトクス故ニ琴ヒクト
云リ照鷺ハ其雄シ羽毛甚ク麗其声トモ
艶美ナルヲ賞シテ鶯姫ナト云雄ハ晴ツ
呼ヒ雌ハ雨ツヨブ

一 駒鳥 其声清越ニテ駒ノ嘶ニ似タリ吉野ヨリ
出スモノヲ上トス吉野ゴト云テ小鳥シ好モノ秘藏ス

一 蛇 活法ノ書ニ二月ト六月トニ出セリ蚊蛇トツキタルモノ
夏季勿論シ二月ニ出セルハ誤シ蛇ノ子ハ春季モ可シ

一 陽炎 系遊 同物ニ名シ春氣地ヨリ升ルヲ陽炎或ハ
カケロフモユルト云イ升テ空ニチラメキ又降ルヲ系
遊ト云し句ニ結フニ可得其意ヲ遊系イトアソブ
ナトハ或ハカタク又無骨ニ聞ユ

一 煙 長ニ二三寸指ノコトクナル見シ又竹煙ト云アリ

貝ニ節アリテ竹ヲ切名カコトシ

一 卷 ニナ 頃ノ和名樹ニ河貝子 河螺ノ倍卷ノ字ヲ用非

ナリト云ニ徒然仲ニモミナムスヒト云ハ糸ヲ結ヒ重
タルガ河貝子ト云貝ニ似タレハ云ト或ヤシコトナキ人
仰セラレキニナト云ハ誤ト書リ

一 寄居虫 ガウナ 和名カミナ 首ハ蜘蛛ニ似テ身ハ蝦ノ如シ 小螺ノ

空殼ニ入テ寄居ス依テ名トス 俗ヤドカリト云
海人取テ鹹魚トストソ

一 モロコ 湖水ノ小魚シ 長三寸ヲ限トス 鱗ニ光有

美魚シ 其味 脂多 湖水佳品 内シ 江西坂本ニ

モロコ川ト云アリ 此魚最多シ 故ニ名トス 大和本州ニ

曰西列ニモモロコアリ 油身魚ト云ト記セリ アブラノ

其鱗 鰓ノ毛ニ似テ 鰓魚ト云リ 大サ七八寸 其味

甚ダ下品トソ 是モロコトハ大ニ異シ 大和本州ノ説不

合 又モロコハ黄鰓魚ナルヘシナド云リ 是モ違ヘリ

黄鰓魚ハワタコシ 江州ノ倍ワタカト云 大ニ成モノ七

八寸又アリ 是モ湖水ニ甚ダ多シ モロコハ三寸ニ不

大小ナレ 又柳モロコト云 一種アリ 活法ノ書ニ柳ノ

葉魚ト出セルモノ 是ナルヘシ 形モロコニサモ違ハス

シテ脊黒ク 腹ニ黒筋有テ 柳ノ葉ノ如シ 凡此モノ

湖水ニ多ク 有テ 早春子ニワル事 他魚ニ勝レテ

腸サモナシ依テ衆子コロコシ然ルニシツクニキ等ニ艸ノ
字ヲ用イフケリモロコハ信称シ此文字イブカシ
捻シテ此魚ヲソラフ他別ニ在ヘカラス江湖ノ産魚シ

一 鮓ニシシノ子取 數ノ子シ 和名カド大ヤスハカリ似ヲシロ 鮓ニシロ 脆ニシロ 甚
多ク下品シ 其子他魚ニ勝リテ大粒ニシテ衆リ連ニシ 依テ
數ノ子ト称ス其名ニツイテ歲始始 督家用テ 之ヲ
為ニ祝者 此魚西南ノ海濱ニ決シテナシ南
部津輕蝦夷ニ最多ク一網ニ獲ケル 數カラトソ
冬ヨリ春ニ至テ毎年取レ 之ヲ

一 椿 苧環等ノ書ニ玉椿ト記セリ玉ハ賞美ノ号ニ

シテ椿ノ名目ニアラス白玉椿ト云モ其ウレシキ 韻ヲ 美シテ
玉ノ字ヲ冠ラセタルシ玉ツハキト云モノ正木ノ類ニアリ
九月正木ノカツラノ下ニ記之 又ツラク椿ト云モ椿ノ
名目ニアラスツハキノ多ク咲列リタルヲ云シ万葉ニ
川カミノ列居椿ソラ 列ソラ ニ見レトモアカス巨勢ノ春野ハ
大和国巨勢野此歌ヨリ作例トナリテ專ラ椿ヲ詠ス
極ツハキノ正字ハ海石榴及山茶花シ延喜式ニモ
海石榴ノ字ヲ書リ順ノ和名抄ニ椿ノ字ヲ記ハ 椿ハ
別物シ 誤レリトソ然トモ今世信皆椿ノ字ヲ以テ
通用シ来レリ俳諧ハ殊ニ通信ノ字宜シ又同ク
苧環ニ椿トハカリハ雜花ハ春ナト記セリ非ナリ
椿トハカリ春季勿論シ梅桃ニ 同シ 花ヲ ラスニ 不及

フクヒ

一スクロノ薄フキ 春ノ野ヲ焼タル取ニ生スルヲ云焼野ニ生テ

墨黒スグロキ色ヲ云シ黯悪スグロノス、キシトソ又頭昭ノ
説ハ末黒スエノ略シト云ミ

一水口祭 稻ノ種ヲヲロス苗代ニ神供ヲ備ヘテ祭ル

一韭ニラ 蒿ノヒレ 蒜ニシラ 胡葱アサツキ 此類皆春季ニ出セリ然レ句ニ依ル

胡葱ハカリ急度春シ韭ナトハ其嫩葉ワカヲ食フコト
五節アリト本州ニミユ胡ヲヒル蒜ニシラハ六月土用入ル
日用ユルナト凡テ句ニヨルヘシ

一水葱ニツ子キ 凍葱 救荒本州ニ生ニ水辺淺中ニ類葱子キ細長

其莢頭ニ膏チ葵チヲムスロウルニ白キ小花ヲ開クト
云リ花ハ夏ト云モノ是シ

一藍蒔アイニク 苧環ニ此カナヲアユニソト付ケタリ非シ凡テ

イトユトハ通音ナレトモソレニ差別アリユノ假名ニ
イヲ用ユルハヨシイノ假名ニユヲ用ユルハ不カハ合カハ 蒔タトハ
鮎アユハイトモ云ガ通音ニシテ鯉ハコユトハイハレサルガ
如シ其重キ假名ヲカロソツカフト輕キ假名ヲ重
スルノ差別シ

一葱クワイ 姑クワイ 本州其外ノ菜蔬史皆此二字ヲ以ス然レニ
活法ノ書ニ苾ノ字クワイト讀セタリ苾ハ字畫

竹ノ陰シヲ、フシト註セリ可見

一虎杖

サイタトリ一種ニ名シ其萌出ル時ヲサイタツト
云イ既ニ長レタルヲイタトリト云是ヲサイタツト
云コト或ル古物語ニ曰ク昔大和国ニ住ケル人ノサ
澤ニ出テ彼竹ノ末長セ時其美ナルヲミテ
契ヲナシ必明日来ルヘシ契違ヘト睦言シ袋ヲ
着セ置テ帰リ翌トク是ニアント行テミレハ一夜
葉ビロニ成テ昨日ミレ取モナカリケレハ
キノフ見シ澤ノイタトリ今日ハ早葉ヒロ成リ又袋タベ君
此歌物語ヲ以テ考ルニサイタツトハサマテ考ル
ト云フ畧シ^{イタツカシ}源氏ニ^{イタツカシ}タゲナルト所ニイ
ハ

可愛ラシキト云詞シ凡此虎杖ヲサイタツト云
説和名類聚抄大和本竹三才圖會等ニモ不
辨^レ之^ラフソラク此古物語サイタツトノ出取ナラシ

一若紫

紫竹ハ元ト山竹シ今諸国種^ク之^ラ深竹トス
奥州遠州豫州ヨリ多ク出^ス之^ラ若紫ハ其苗^シ
^{古今}春日野ノ若紫ノスリ衣シノフノミタレ限リシラレス
是紫ノ嫩葉ヲ以テ^イ摺^カ深^クタル衣^キシレノフ文字摺ノ
意ニテ讀リトソ

三月

一巳ノ日、祓

是ハ行事ニアラス唐土ヨリ始メ傳テ三月

上巳シヤウシノ日水邊ニ出テ神祓スレハ疫疾ヲハラフ不祥

ヲ除クトシ漢書ニ百官東流ノ水上ニ禊シヤウスルコトヲ

載タリ琅邪ラウヤ代醉サイサイニ上巳ハ上ウヘノ巳シニシアラス古

人用ヒト日ヒヲ皆十干シヤウヲ以テス十二支シヤウヲ用ユコトナド

云リ然シカドトモ今世此説ヲ用イスヤハリ巳シノ日ヲ用ヒ慈鎮和尚

アハレトモケフコソ桃ノ花盛上ウヘノ巳シノ日ト誰タレ定メケン

然シカドノ又唐土ニモ魏ノ文帝ノ代ヨリ巳シノ日ヲカテ三

日ヒヲ用ユトフ今本邦モ又同ドウ之シ源氏物語ニハ弥生

朔日則巳シノ日シ海濱ニ陰陽師ヲ召シテ祓シ玉フ

コトヲ記ス則須方ノ被ト云是也

一青^キ踏^{フム}

上ノ巳ノ日山野ニ出テ遊フコト也唐土ニ殊ニ有詩題ニ出タリ楊竹亭ノ詩ニ踏^キ踏^キ行向^ク春風ノ中四^ス顧山花照眼紅

一寒食

清明ノ節ノ前二日清明ハ三月ノ節也冬至ノ後一百五日ニ當ル日也周禮季春火盛^シテ懼^ル國中禁^ル火^ヲ寒食^スト云々杏^ノ粥^ト桃花^ノ粥^ト東^ノ饅^ト青^ノ精^ノ飯^ト以^テ柗^ノ桐^ノ葉^ヲ深^ク飯^ス日ノコトニシテ詩文章ニ出俳諧ニサ^テテ採^ル之^ヲ季スヘキニモアラス寒食ハ句題トスヘシ延寶ノ句合ニ

令^リア^ンスルニ寒食ノ家ニハ自身番其^ノ節

古翁判^ニ曰寒食ノ自身番^ト此日ハ火ノ洲汰^リ忌^トイハ批判ノ批^ヲモ忌^ヘキト云

一鞞^{レクセシ}ノ戲

フサフリト訓ス又半仙トモ云註ニ曰寒食ノ節立^テ鞞^ノ為^レ樂^ト呼^テ半仙ノ戲トイフト云々又或記ニ鞞^ハ元^ト北方ノ山戎其子ニ^ハ鞞^ト捷^ノ術ヲ習^ハシメシカ^ク為^レ高木ニ細^ク懸^テ張^リ網ノ上ニ座^シ或ハ上下^レ今^ハ海^ノ之^ヲヨリ起^リタル業^シ中華ノ兒童壯子^ト倣^シ之^ニ為^レ戲^ト今本邦ニアル輕^ク趨^クト云

一小子^{ヒコ}孿

是又寒食ノ日且^ツ春遊ノ戲ノ小子也

ワケ上

只小寺ヒソトハカリ句ニ作りタル分ニテハ春季ト
ナラス俳子可得_ニ其意_ヲシ 藻塩竹ニ
秋ノ稻ノヲサミレル世ノウレシキハ春ノ遊ノ鞠小寺ニテ

一田鼠化_ト鶉_ト成_ル 清明ノ候三月ノ節ニ禮記月令ニ出
三才圖會ニ曰此ニ田鼠ト称スルモノ鶉_{カウラモチ}ニ
ニテウゴロモチト云又此鶉ト称スルモノ鶉_{カウラモチ}ト云ミ

一住吉ノ汐子 三日 泉別境ノ浦無双ノ壯觀ニ

一薬師寺最勝會 七月ヨリ七ケ月ノ間最勝王經ヲ講ス
天長七年ニ始_トソ 南都七大寺ノ一區ニ

一泉涌寺ノ用山忌 九日 活法書八日ト記違_ニ 洛東泉涌寺ハ
左大臣緒嗣公齊明三年ニ建立シ中古建保年中
釈ノ俊_{コノカタ}仍再真之_ヲ 後人皇百四代後土御門ノ院
以降_ニ至今_ニ 御陵所ト成_ル 宗ハ重_ニ禪律真言_ヲ

一高雄法華會 十日 洛西於高雄山神護寺ニ法華大會_ヲ
修ス 此寺人皇四十八代称徳天皇ノ御宇ハ
幡大神宮ノ神託ニヨツテ四十九代光仁帝和氣ノ
清曆ニ余ノ叶_テ創_シ玉フ時神願寺ト称ス後天
長二年改_テ之_ヲ 神護寺ト号ス當山所懸鐘樓
ノ鐘 橘ノ廣相_{フミ}所作ノ序菅原ノ是善_{菅丞相ノ父}
之銘 藤原ノ敏行ノ手蹟ニ是ヲ三絶ト云此

鐘令ニ存ス本朝無雙ノ珍器シトソ

一安良花

十日 是ヲ正花ニ用ル俳士マ、アリ此祭ノ由来

不知故シ花ノコトニアラス西加茂上野河上村ノ三
郷ヨリ傘鉞及囃ハヤシモノヲ出シテ今宮ノ社ノ拜殿エ
来ル神事ニ甚壯觀シ京師ノ貴賤群集ス是
春ノ疫氣ヲ祓フ祭シ今宮ノ神社ハ疫神シ正
曆年中天下大ニ疫癘ノ万民苦死ス依テ此神社ヲ
建ラレ祭ラシム其時藤原ノ長能

後拾遺

今ヨリハアヲフル心マシマスナ花ノ都ニ社サタメツ

徒然竹野植ニ曰安良祭ノ囃ハヤシ高雄ハ法華會

ヤスライニハテヨトコソ囃スヘキヲ高雄ハ法華會ヨ

ヤスライ花ヨト訛リ囃スシト云ニ

一吉野會式

十一日 勝手ノ神前ニテ法華千部修行ニ

近国ノ諸民群集ス折ニ花盛ノ年ハ殊更トモ之
京大坂ノ遊人夥ク来ル

一禮拜講

十二日三日 兩日江州日吉八王子ノ神前ニテ

行ル天台禮拜講ト称ス

一石清水臨時祭

中吉日 南祭ト云名高キ祭禮シ天

慶五年ニ始ル是スキニシ年此御神ノ以御威力ヲ
將門カ乱ラシツメ至レ御報賽カヘリモラシシト云ニ

ワク上

一稻荷ノ御出 中ノ日 油小路ノ西九条坊門ノ北ノ御旅
采エ神輿ヲ出ス五基 四月上ノ卯ノ日ノ祭ニテ
御旅居シ都下ノ男女群詣ス

一鎮花ノ祭 是亦非正花ニ疫神祓シ三輪 狹井ノ
両神ヲ祭テ神祇官ニテ行レ之ヲ

一壬生念佛 十四日ヨリ廿四日ニ至 念佛法會ノ間近郷ノ百姓
種ノ輕擡 傀儡舞 蜘蛛舞等ノ狂舞ヲナス都下
ノ貴賤群參ス嵯峨及千本ノ念佛トモニ鎮花
法會ノ遺意シ皆疫神祓シ

一勸學會 十五日 大学寮ノ諸生江州西坂本ノ寺院
行集リ法華經ノ文句ヲ題トシテ賦詩云シ

一御身拭 十九日 嵯峨清凉寺ノ釈迦佛ノ身体ヲ
白布ヲ以テ拭ヒ其布ヲ參詣ノ諸人ニ授テ
袈或ハ教珠帛トス

一御影供 廿一日 ミエクウトモ云弘法大師ノ御忌シ浴下
東寺 秘密傳法弥勒山 金光明四天王教王護国寺ト号ス
又高雄ノ神護寺御室 仁和寺ニテモ此日行レ之ヲ

一雲入鳥 春氣ニ乘シテ高ク飛アカルヲ云シ 歌書ニ

雲鳥トツケタルハ鴈ト云説アリ俳諧ニ其差
別ナシ只一切ノ鳥シ

一鳥カヘル 秋ワタリタル諸鳥ノ春帰ヲ云シ

一麥鶉

春州麥ノ中ニ子ヲ哺ス鶉シアイフト云ハ

鶉ノ雌ヲ云シ雌ハ嘯ナシ子ヲ哺ス時鳴クヲ

ヒ、ナキト云シ

一櫻魚

和漢三才圖會大和本州和名抄等其外

魚史ニモ不載之ヲ 櫻川ノ謳ニ櫻魚ト聞クモナツ

カレヤト作ルヲ以考ニ常陸国櫻川霞カ浦ノ

邊ニハカク名ワクル魚アラント覺エテ予先年筑
波登山シテ彼辺一見セシ時アタリニテ好事者
尋子侍ニ答テ曰イカニモ此国ニテ昔ヨリ櫻魚
云傳エタル魚有リ春暖ヲ得テ此河ニ多ク上ル
細ヲモテスクロ取侍ル則此浦ノ名産ワカサギト云
魚是シト云リソレヨリ水戸ノ府ニ到リテ武学
匠ニ逢テ此事ヲ尋ルニ中古常陸ノ国史改リ
スル時國中名産ノ品類ニ至リ櫻魚ノ名古書
往ニアリテワカサキニ極リスト云ニ然レハ此魚他
別ニテハワカサキ常陸ニテハ櫻魚ト云コト心セリ
大和本州ニ曰ワカサキ漢名不知難ノ如ク色白
小魚シ西州ニハ有ルコトヲ不聞江戸及東国ノ

江河ニ多シ但シ若州三方ノ湖中ニアマサギト云
モノ有リ是ト同類カト云ニ

一櫻ウグヒ 正字不詳 鯪ノ字ヲ用素ル 倍字シト
此魚所ニニアリ先江湖ニ多シ五六寸ヨリ大キ
モノ七八寸背黒ク腹鱗赤シ信州諏訪ノ湖水ニ
テ赤魚ト云イ 菅根ニテ赤腹ト云フ 豊後モ多シ
其外所ニニアリテ春花開散頃取モノヲ櫻
ウクヒト云シ 鯛モ櫻ノ時節多ク釣ルヲ櫻鯛ト云カ

一葉子 カクコ 蟹シ 此虫ヲ育ニ 始終葉ノ嫩葉ヲ以テス
依テクワコト云シ 蟹ノ字カイコト和訓スルモクマ

カシ 反カナレハヤハリクワコト云意ノ訓シ 伊勢物語ニ
中ノクニ戀ニ死ナスハ葉子ニソナルヘカリケル玉ノ緒ハカリ

一辛夷 コブシ 葉柿ニ似テ紫ノ苞 紅焰アリ又白花ノ
モノアリ小幣ノ如ナレハ幣コブシト云紫ノモノ木
蓮ニ似タリ香氣蓮ノコトク 蘭ニチカシ其荅筆
似タレハ木筆ノ名アリ

一壇ノ躑躅 ダン ツツシ 上加茂ノ南ノ山 壇ト云取躑躅甚
多ク景象又類ナシ依テ名ツク

一キリシマ 紅白紫數種アリ 元隅州霧嶋ト云

嶋ヨリ虫セルツ、シシ

一ツフノ浦梨

新古今

勢別亭生ノ浦梨花ノ名所也 俊頼
サツラ麻ノツフノ浦波立カハリミレトモアカス山梨ノ花

一木瓜^{ホケ}ノ花

數種アリカラホケハ花初メ白ツ中頃淡紅
後深紅トナル 檀子ト云ハ 竹木瓜^{ホケ}ハ高サ一尺ハカリ
花甚深紅子ハ 檳檀ノ如クシテ小シ武列相列ノ
野ニ多ク他列ニハミエス其外寒ホケ淀ホケ
長春ホケト云アリ

一通州^{アサヒ}ノ花

紫也シ又白花ノモノ有蔓シ鞍馬ノ木ノ
芽漬ト云モノ通州ノ芽シ香氣アリテ佳品シ花ハ
香實ハ秋シ此類ノモノハ花トコトハラ子ハ春季儘ナラヌ

一紫荆^{ムササビ}ノ花

畿内江東ニ多ク人家ノ籬トス春三
月淡紫ノ花 叢開花ハ毒アリトソ是異朝ヨリ
来ル 蘗枋ニハアラス和ノスハウ花シ不可混ス

一赤南^{シヤクナ}花

木ハ高カラス葉ハトヘラニ似テ長ク厚シ花ハ
八重ニシテ淡紅似芍薬 和列吉野江列金勝山
多シ石南花ノ字宜シトソ 唐土ニテ緋櫻ト云ハ是
ナリト云々本邦ニテハ是ヲヒサクラトハイハス 櫻ノ
八重ニシテ赤キヲ帯ルモノヲ緋櫻ト云シ

一 小朶ノ花 小樹叢生葉ニロク狭ク立條アリ三月
小白花ヲ開クコナリ咲テ白キコト如雪蒸糲ノ如シ

一 小梅花 是畿内江東ニテ庭梅ト云モノシ花甚小
シテ梅花ノ形アリ色淡赤實ハ梅ニアラス櫻ノ實
サレ大ナルモノシ櫻ノ實ハ熟レテ黒シ庭梅ノ實ハ
熟レテウス赤レ小兒好テ喰之ラ是大和本州等
出ス山櫻桃シ或説ニ小梅ハ信濃梅ナルヘシトモ
又臘梅ナルヘシト云リ信濃梅臘梅トモニ三月花
咲モノニ非ス是無替ノ説シ

一 庭櫻 櫻ノ別種ニレテ小樹シ花葉櫻ニ似テ甚小シ
又稱櫻ト云アリ一類シ庭櫻ハ花ウス赤ク稱
サクラハ花純白シ

一 馬酔木ノ花 葉ハ忍冬ニ似テ味苦シ暮春小白花ヲ開ク
サレ黄ヲ帯フ花下ニ垂レ咲ク歌ニアセミトヨメリ馬
此葉ヲクラハ酔フ依テ名トス
取ツナケ玉田横野ノハナチ駒ワシ交リニアセミ花咲ク

一 令法 山茶科 又ハタツモリトモ云木モ葉モ淀川ワシニ似テ
花ハ灰白シ飢年ニ採葉ヲ蒸テ食ス佳味シトソ

一 莖 ヒトヨ州 コニヒキ州ト云シ畿内江東ニテ相撲取

ト云其花ノ鑑有^ル取^ヘ西花ヲ相懸引^リアヒテ兒
童戲^トス依^テ此名アリ 千律師^ノ草^ノ贊^ニ曰^ク莖^ハ
糸條^ノ如^クテヨロク立^ル頂^ニ一粟^ノ露^{ホト}ニ咲^リ
アヤメ^ノ燕子花^ノハナク^シキニモ似^ス葉^ガリ^レノ幽^{ナル}ニ
万^ツノ哀^モコモルカレト云^リ 翁^ノ宮^ノ根^ニテ
山路^来テ何ヤラユカレスミレ^ク也

一新茶 春トレ其トスル論古今々エス 宇治ノ茶ツミ及
茶ヲ制衣スル句ハ春^ノ他^ノ別^ニテ新茶ヲ賞味スル句^ハ夏
只新茶ノカホリナト云モ夏^ノ猶^テ文字^ノ所^ニ未^ダ記

一春菊 ^{レユニキク} 葉^コメカバキニ似^テ莖^ノ高^サ一^ニ三^尺三月^淡碧^石
花^ヲ開^ク野^春菊^ト云^又菜^菔高^ト云^モノアリ
信^シキト呼^ブ葉^香氣^アツテヒク^シモノト^レテ食^ム花
純^黄ニシテ春^夏秋^ノイハズ^莖ノ生^立時^ニ咲^ク是^ト不可^混ス

一東菊 ^{トウキク} 和本^州ニ葉^サ萩^ニ似^テサト大^シ岐^割ナシ^春三
月^花ヲ開^ク菊^ノ如^シト云^リ又^秋ニ一^種アリ 單^ノ碧^花也

一高麗菊 ^{コウレイキク} 本^州及^花史^等ニ不^載 按^ニ葉^柶似^テ面
碧^滑裏^白ノ莖^ニ節^多ク高^サ尺^ハカリ^節曲^ル也
故^ニ舒^カタシ^春黄^花ヲ開^ク俗^ニ高^麗菊^ト云^フ
畿^内江^東圃^庭ニ多^シ又^筒蒿^ノ一^名高^麗菊^ト
ト云^説アリ^難信

一 櫻サクラ州サウ

花色トモニサナカラ 櫻ニ似テ甚タ小し今州花
肆ヤニ一株數莖アルモノ小キ 陶器ニ植テ賣是ヤキモノは好事
ノ者實植ニ數種異花ヲ出ス或ハ紫紋薄紅白花
モノ有リ花モ大ク如錢 九輪州七重州ト云モ此類種し

一 馬バ蘭ラン

三四月淺紫ノ花ヲ開ク花六瓣し葉ハ水仙及
蘭ニ似テ甚厚ク硬一モトヨリ二三十莖ヲ生ス元
野州し今圃園ニ植テ愛花ヲ 和名抄ニカキワタ
ノ一名ヲ馬蘭ト云モノ誤レリトソ

一 化エ儉ヒ州チ

葉ハ車前州ニ似テ椶櫚ノ如ク元トニ皮ヲエリ
莖ヲ抽テ春花ヲ開ク肉紅色或ハ柿色淡黄ノモノ
今庭院ニ植テ愛之ヲ 白花ノモノ稀ニ有一名山茨
其根蝦ニ似タリト云ニ

一 金鳳花

一名毛茛 又鬼ノ田芥子ト云大毒州し葉ヲ
モミテ寸シロニツクルニ火燎ノ如ク忽フクレテ土墮ヲ
截ス 石龍芮ト同事し春小黄花ヲ開ク甚光澤
アリ千葉ノモノ猶可愛

一 華ケ鬘マン

荷包牡丹 一名魚兒州 葉ハ牡丹ニ似テ花ハ淡
紅白 瓶佛具ノケマンニ似タルヲ以テ名トス

一 丁子州

花ハ丁子ノ瓶ニ似テ淺葱し葉ハ柗ノ如ニテ

中ノ立條白シ

一眉作ノ花

苧環ニ一説鬼筋又美人竹是シト記セリ

皆非シ既ニ活法ノ書ニ兔薊ハ二月ニ出シ美人竹ハ

夏シ眉作り別物シ按ニ畿内江東ノ原野ニ女粧

具ノ眉掃ニサナカラ似タル花アリ倍呼テカキ

ミン竹ト云フ葉ハ鼓竹ニ似テ長シ莖細ク嫩ニ

シテ一莖一花シ紫褐色ノ花ヲ開ク其蒼時

ナシ眉掃筆ニ似タリカキミンザウノ倍称ソソ

ラク畫眉竹ナルヘシ女粧ノ眉掃ヲ眉作トモ

眉畫トモ云シ大和本竹ニ圖ニタル猫竹ト云

モノ、花是ニ似タリ

一仙臺萩

今竹花肆ニアルモノ花ハ黄ニシテ豆ノ花

如ク葉ハ野萩ニ似テ嫩シ本竹菜蔬類ニ載

タル苜蓿ニ似タリ但シソ、イハ滑菜類ニシテ

夏秋花ヲ開クト云モノ異シ

一金錢花

臘月ヨリ咲カケテ春最盛シ依テ常

春花ト云其色金紅シ中ニモ春花至テ佳シ

一雞頭實ノ花

又芡實ヲニバスト訓ス花苞ノ形ヲ雞

頭ニ似テ葉ハ蓮ノ甚大キナルモノシ葉ニモ莖ニモ

毛刺有所ク古キ池ニ多シ椹列昆陽ノ池ニ一面

有之花ハ春ミツフキトハカリハ其心

ワク上

一セシイ 紫萁セシイト訓ス 狗脊ハ別物シセシイニ
非ス然レトモ俳諧ニハ人ノ遍ク知来ル文字モ宜シ

一サクラ衣 表白 裏紫 山吹衣 表村葉 裏黄 重山吹 表白 裏黄 ツシ

衣 表白 裏紅 是皆倍家ノ衣類ニアラス裝束ノ
服色シ飾抄及桃花葉葉等ノ書ニ委出セリ

篋 蘊 輪 卷之二 方竟千梅選

四月

一孟蓂ノ旬 朔日 二孟ノ旬ト云十月ト兩度シ群臣ニ御

酒賜_ヒ天子自_ラ政ヲ聞召義シ凡_ソ旬行セ玉フト

云コト事_{コト}毎_{ゴト}ニアリ内裏御造營ノ後行セ玉フト

新所ノ旬ト云御即位アツテ政ニノソニ玉フ時ノツハ

万機ノ旬ト申ス十一月朔日冬至ニ當ル時行セ玉フト

朔旦ノ旬ト云シ其中ニ夏冬ノ旬モ嚴重シ依テ

二孟ノ旬ト申侍此日諸臣ニ扇ヲ玉フニヨリ扇ノ

并ト云并賀アリ

早

一 主水司供氷

朔日

復ノ初メノ日ナレハ先令日献之

別レテハ六月朔日ニ貢之

六十二年額田ノ大中彦ノ王子拱津国ニ狩レテ

園雞野ト云所ニテ始テ氷室ト云モノヲ見出玉ヒ

仁徳ノ聖主ニ献氷ヲ玉ヒレヨリ始ルト云ニ

中勢

夫沐ニレヘノ園雞野ノ御将ソレヨリソ氷室ヲモノタテ始ケン

一 青簾

朔日

御殿ニ新簾ヲ懸替ラル、ヲ云シ此日

掃部寮冬ノ御座ヲ撤シテ夏ノ御座ヲ奉

宮中所ニノ御装束改之ヲト云ニ

一 虎杖競

朔日

貴船ノ御神事也此日加茂ノ氏人

騎馬ニテ詣ス帰ル時市原野ノ連理ノサエト云所ニ

ツイテ虎杖ヲ争ヒ取り其大小多サヲ論ス例年ノ

コトニテ甚々真也

一 山崎日使

三日

是山崎離宮ノ神人年番ニテハ

幡へ卷ル其役ニ當リタル人ヲ日ノ使又日ノ長者ト云ニ

年中行事ニハ幡ノ日ノ當ト云是也

一 鷹鳥屋入ル

鷹ハ四季ニ在テ冬ヲ第一トス暮春ノ

頃ヨリ毛ヲ易ルニヨツテ其間ハ鳥屋ニ籠メ置シ

是ヲ鳥屋鷹ト云鷹ノ餌忘ト云モ此時ノ

コトニテ夏季也

一戒壇堂開帳 八日 敷山ノ山上ニ在リ此日山門ノ花
插^ミトテ貴賤群詣ス婦人ハ女人堂ニテ登ル

一葵祭 中ノ酉日 加茂ノ御生ノ御神事ト云是し

勅使アリ此祭將軍家^ユ葵^ヲ献^ス於^ク中絶ナリシカ廢レ
タル^ヲ興^シテ元禄七年ヨリ令^テ復^シ行^ハ之^ヲ玉^フ凡^ソ
祭トバカリ云ハ葵祭シ 搃^シテ此神事ニ葵^カ蔓^マヲ用
ユル事公事根源ニ曰昔夢ノ告有^レヨリ今日人^ニ
葵蔓ヲ懸^ク加茂松ノ尾ノ神司ヨリ前日献^レ之^ト
云、禁裏御翠^ニ簾^ス毎ニ懸^ラ之^ヲ 氏人其外ノ
人家簾及^テ方^ツノ器物ニテニ皆懸^ク之^ヲ 諸人頂^ニ
カサシ或ハ^ハ顛^ハ卷^ニ 依^テ葵祭ト称ス^ノ葵

蔓ト云モノ常ノ葵^ノ州^ニハアラス加茂ノ山中ニ^ニ有
外ニナシ古記ニ曰加茂ノ山中ニ^ニツ葉ノ葵有^テ其葉
團^コ々^ト尖^リ地^ニ布^テ生^ス葉表青^ク裏紫^クヲ帶^フ毎
例御神事ニ加茂ノ北山中村ト云所ヨリ奉^レ之^ヲ
儀^サ蔓^ノ州^ニモアラスニ葉^ノ州^モ口^ノ葉^ノ州^モ口^ノ蔓^ト云^シ
イカナレハ其神山ノ葵^ノ州^年ハフントモニ葉^{ナル}ラン 小侍從
日影山ケ^テノカサシノモロハ州^カケテ頼^ト神^ハ知^{ラン} 忠基
凡四月ハ神事月ニシテ京師及畿内江東ノ祭祀諸社
悉^ク當^月シ記^ルニ不^レ違^テ依^テ葵祭ノ^ニヨリ記^ノ餘^ハ略^シ之^ヲ

一關白ノ加茂詣 御神事ノ前日シ 天禄二年攝政謙徳公
ヨリ始^ル神人葵蔓ヲ持社頭ニ奉^レ迎^レ則^レコレヲ

冠懸玉ヲ神前ニテ東遊求子駿河舞ナト有ト云ニ

一高野ノ花供 廿一日 非正花ニ大師ノ衣ヲ取カヘラルコト也

一松前へ渡ル 是北海ハ冬春风波アラリ渡海シガリシ

故ニ南部津輕等ノ商人四月ニ至海平カニナリテ

松前へ渡リ産物ヲ交易シ其荷物ヲ運送シテ

秋ニナレバ徐々ノ仕廻リ歸ルヲ上ルト云シ依テ渡ル

上ルヲ夏秋ノ季トス

一梅天 和清ノ天 四月ノ天ノ至テ清和ナルヲ云シ梅月

梅渡トモニ四月ノ異名也 五月ハハヤ梅ノ子熟シ

四月梅子ノ青ミト盛ニテ天氣相合ヲ以テ梅天ト云トソ

一駒牽 廿八日 是四月ノ駒牽也 是ハ来月廿九日近ノ

馬場ノ騎射ノ馬也及射手ノ行莊ヲ今日御庭ニ渡

サレテ敷覽シ玉ヲ天子武德殿ニ御幸シ其間東遊

納蘇利等ノ樂アリ以上公事根源ニ出

一燕子花 カキツハタ 紫羅傘 イチハツ 胡蝶花 シヤガ 是大本州其外ノ州

花史ニ記セル正字也サレトモ俳諧ニハ人ノ知来ル通

俗ノ字宜シ假名付イラス無造作也

一ホウキヤリ 此州園史州史ニ不載俗狐ノ挑灯ト

云モノ是しトソ莖ノ高サ一尺ハカリ葉ハ野車ニ似テ
サト細シ白花ニシテ内ニ五月イロトリ 穀 豎ニ三條スレハカリ
有花垂レ咲テマコトノ 窰鐸オウムヤウニ似タリ江東
原野ニ多シ

一風車 蔓州 鐵線ノ類シ花ハ八瓣ニシテヒトエノ
蒼碧色又白花千葉ノモノアリ

一鴨足カビサウ 和名鏡面州カミツクサ 石上ニ生ス蔓州ツルし凡カニ
州ト称スルモノ數種アリ螺磨州 白前州 白蘇
皆カニ州ト訓ス其種モ州異アリトソ其中ニ鴨足
州ハ則鏡面州しト云

一岩井藤 花モ葉モ藤ニ似テ小シ莖ヒクシ稀ニ白花ノ
モノ有藤ニ紫白アルカ如シ

一踊花 高サ尺ハカリ葉ハ小葵ニ似テ葉ノ元トニ小白
花ヲ開ク其形イ 兒童ノ笠ヲ著テ踊ルニ似タリ故ニ名ナス

一茶ヒキ州 烏麥カラスムキ一名燕麥 田野ニ自生ス苗葉
小麦ニ似テ弱ク小シ穗細小兒穗粒ホヲ瓜ノ上ニ載レハ
旋回スルコト茶磨チヤウスヲ挽カコトシ依テ此名アリ

一ワツラ葉 病葉しワツラハシキ葉ト云畧し若葉ノ時
紅葉シタルモノタミク有リ是病葉し又搥シテノ

嫩葉ヲ云トモイヘリ歌ニワクラハニ同人アラハト讀ハ懶近
或ハ不慮ト書リタミサカ不慮人ノ同ハト云意一説
是モ右ノワクラ葉ヨリ出タル詞トソ多葉ノ中ニタミサカ
思ヒカケス紅葉シタルモノアレハ是ヨリタル詞ト云ニ

一常盤木、落葉 松楸等ノ落葉し或ハ雜ト云説モ下
公羽 清滝ヤ波ニ散コム青松葉 是其白し
證句トスヘシ

一花袖 夏季ニ用ユルハ袖ノ花し或ハ又花ヲチノ至テ
小ナル子ヲ花袖ト云し又袖ノ別種ニ小柚子アリ是
花袖ト称スソレハ秋し

一美人艸 罌粟花ノ別種ニ小ナルモノし花四瓣紅白千
葉單葉數種 皆愛スルニタエリ虞美人竹ト称ス

一鷹爪 花黄ニシテ山吹ニ似タリ花ヒラ末銳ニテ鷹
ツメノ如シ葉ハ柗ノコトク木ハ連莖ニ似タリ年々
栲ヲ出シテ花繁ク咲リ浪花ニ多シ

一白丁花 庭院ニ植梢ヲ一樣ニ芬楡テ籬トシ或
雨落ニ植之ヲ四月小白花ヲ開ク又同類ニテ
花ナキモノ有女木男木ノ異し

一山千サノ花 賣子木ト名ヅク艸ニアラス高サ五七尺

ワカニ

四三

山中ニハ大木アリ葉ハ柿ニ似テ尖レリ 四五月
焦タル紅色ノ花ヲ開ク

一厚朴ノ花

和名抄ニホウガンノト稱ス葉ハ櫛ニ似テ
大し花ハ牡丹ニ似テ甚タ大ク淡紫色色シ大木有
本州ニ花細ナル紅花ト云イ葉四季不凋落ト云モノ
本邦ノ厚朴ト不合漢和土木ノ性異ナルカ

一藪ツハキ

椿數種花史ニ出タレトモ藪椿ト云名目ハ
ナシ是野椿ノ藪ニ咲クレテ初夏ノ頃花アル
モノヲ云ナラン摠ンテ夏季花スクナキニ依テ
サマテナキ物モ用イ出ス活法ノ例シ

一椶櫚ノ花

三四月樹ノ末莖中ヨリ苞ヲ出シ長ノ後
花穂ヲナス黄白色若樹ニハ不咲活法ノ書ニ寸椶
椚ノ三字ヲ以テシユロト記セリ出所イブカシ

一スノ子

篠ハシノシサ、シ竹ノ小ナルモノシ梅ニ竹ノ子
ヲ自然穀ト云リス、ノコハ篠ノ子ナルコトイチレルシ
本州等ニハ出サス

一岩梨

畿内江東ニテイバナシト云山中岩ノハザニ
生ス苗ノ高サ二三寸地ニ布テ生ス三四月葉ノ間ニ
子ヲ結フ楊梅ノ如シ其味耳酸シ小兒好テ食ス
芭蕉翁国分山題ニ幻佳庵ニル右ノ句

軒チカキ岩梨ヲルナ猿ノ足 千律師

一蓮ノハイ 頰ノ和名折ニ蓮ノ菴ワサ子 和名ハイシ五六月採テ之ヲ喰ト云ニ則菴ノ字ハイト讀セタリ

一鴉カウコウトリ鳩 カンコ鳥 カウホ鳩 又ツ、鳥フ、鳥皆鴉鳩ノ文字ヲ以テス大和本州ニ曰カンコ鳥倍ニ杜鵑ノホト、キス雌メシト云モノ遠カラス其声不喧カヒス 寂シ音不同トイヘトモ風韻ヒトシト云コ

一方目鳥 大小二種アリ大バシハ頭黒ク頬ノ邊白シトハシハ頰ノ對リ毛初青ク後紅ニ成時即暮シ

一葭原雀 本名鸛カウカウ 雀シゲラヨシハシリキヤウクシヨシ雀トモ云 其声甚喧カヒスシテ昼夜鳴六月土用ユ入即止声

一蚊喰鳥 此鳥一切ノ禽史ニミエス江東ニ在リ鳩ノヤト小ナルモノニシテ鼠色シ黄昏人家ノ軒ニシリニ飛行シ或ハ墜ヘアワニシリ居テ蚊ヲ喰フ 信蚊鳥ト云し予兩度見之ヲトイヘトモホノ暗キ所ニテ其聲コト等ノ形容シカト不見届一依テ委難記レ

一土鴨アマガモ鳴 春ヨリ秋中ニテ有リテ木ノ枝ニ栖スミ雨ナフトスル時鳴ナレハ夏ト定カメレ句ニ依ルヘシ

一 塩鳥賊 夏季ニ用ユルコト邊土山中ナトノ海濱ニ

遠キ田舎ノコトシ江戸大坂等ノ鶯花ニハ生
鳥賊春ヨリ四五月ニ至リ最中有テ塩鳥賊
シ無用ニテ翁 鳥賊賣ノ聲ニキラハレ時鳥

一 蝦魁 カガメ 蟹ノ属ニシテ甚タ大ナルモノシ前ノ両脚

長キコト尺餘身ハ五六寸甲アリ葦子ヲ生ス
蟹ノ子ノ如ク殼ノ外腹ノ下ニアリ卵シ活法ノ
書ニ龜ノ字シ用イツケリ龜ハウミカメト訓ス
書違ナルヘシ

一 解蟹 カニヒレコ 蟹ノヒレコ漬ナルヘシトソ 蟹ノ属ニテ

小ナルモノシカニヒレコ不解但蟹肉醬ナラシカ

一 鮓鮓 活法ノ書ニ生熟ハ春シト記セリ是生

熟トコトハラストモ鮓鮓ハ勿論春シ諸国鮓
有トイヘトモ江湖ノ鮓本朝ニテノ名産シ然ルニ
中春ヲ江湖ノ鮓ノ盛トス鮓ヲ公ニ献ス則
春シハ俳諧ハ書籍ノウヘノ沙汰ニアラス其物
當用ニテ究ムル事蕉門ノ口決シ

一 鹿ノ袋角 元鹿ノ角 初春ヲ落テ直ニ嫩角生シ其

長ス秋ニ至テ硬シ其長スル時ヲ袋角トス

五月

一加茂ノ足揃

朔日 是五日ノ競馬ノナラシシ五日ト替
コトナリ甚壯觀し京師ノ貴賤群集ス

一藥玉

葛蒲ヨモギ艾クヌギヲ五色ノ糸ヲ以テ貫キ結タルモノ
ナリ先御堂ミヤノ廉ニ懸ツ之ヲ又群臣ニ給ツ之ヲ各コレヲ
掛ツ臂ニ疫氣ヲ袪ツフ術ニ公事根源ニ曰五月五日
典藥寮ヨリクス玉ヲ献ス長命縹ニ續命縹ノ
名アリ四月加茂ノ祭ノ日御簾ニカケレ葵ヲ
今日藥玉ニ懸カヘラルト云ニ徒然ニ州ニモコノ
コトヲ記セリ

一削懸ノ甲 五日 此日門戸ニ幟ヲ立甲兵ノ器ヲ飾ハ
邪氣ヲ祓フ術シ 唐土ニ艾人艾虎ヲ作テ門上ニ
懸ケ頭ニ載クコト荆楚歳時記ニ出セリソレト同意シ
ケワリカケハ以柵ヲ作レ之ヲ 元日祇園ノ削懸ヲ
標格トシテ甲ノカサレトス是又邪氣ヲ祓フ神
呪シトソ

一鴿鴿舌ヲ去 此鳥ツタニキニヌエト假名付セリ非心トソ
クヨク鳥シ 本件ニ鴿鴿 鴿鴿トモニクワクニト
訓ス五月五日其舌ノ尖リヲ去ハ則能ク人語ヲナス
聲尤清越シト云ニ鴿鴿ハ唼唼鳥シトモイヘリ
鴿ニアラス能其出所ヲ可見ル

一競渡 鳧車 水馬 是皆五月五日川ニ出テ其
遅速ヲ競遊フシ云シ

一真手番 荒手番 トモニ騎射シ 江次第ニ曰五月
五日天子豊樂殿ニテ騎射 觀覽作射禮公
事ヲ真手番荒手番ノ式アリト云ニ 是則
禁庭於左近ノ馬場ニ射騎ツ云シ左近ノ荒
手番三日 右近ノ荒手番四日 左近ノ真手番五日
右近ノ馬場ノ真手番ハ六日シ 此日ツヒシリノ目ト
云近衛ノ隨身射ニ着スルトコロノ褐ノ尻ヲ引
折リテ着ル 依テ六月ノ騎射ヲヒシリト云 引折ノ
畧シ但今騎射トハカリ句ニ結ヒテハ夏季慥

ナラス武門ニ常ニ騎射アリ

一印地打インヂウチ 五日 壯士兒童東西ト立分キ小石ヲ打

アイ小チヲヒイテ戲ニ闘争タケカヒ勝負スルヲ云ヒ昔武門ノ兒童ニ軍場ノ駈引ヲ習ハシムルヨリ始江東佐々木ノ社ノ祭禮五月五日今ニ印地打アリ

一棟ノ佩フナチツツ 五日 是邪氣ヲ祓シタメニ棟ノ枝葉ヲ腰

帶ツビ卷マシシ、チノ字棟ツツ宜イ標チヨハ別物ワケモノシトソ

一當娘生トウメウマ 芒種ノ候 五月ノ節フシ 禮記月

令ニ出

一有リ無アリナシノ日 廿五日 元禁ハシメニ庭ニ齋イハシ 祭祀ナキ日稀

是ノ日村上天皇ノ御国忌ミコクニヒナル故ニ定キル祭祀ナシ然シレトモ急ナル事トアレハ行ハル、し依リテ此日ヲ有リナシノ日ト名ツク

一大原志オホハラシ 廿八日 丹波国大原ノ社へ参マルヲ昔ヨリ所

ニテモツハラザレト云習ハセリ當月農事ニサシツドフ故ニ迎來三月ニ神事トリ行ハル春ザレト云大原ノ神社元ト伊弉册尊中古伊弉諾尊天照太神ヲ加ヘテ今ニ為ス三社ト云ハ

一山田ノ御田扇ヤマタノミタアヒ 太神宮ノ御田植ニ五六尺有ル扇

フツ上

フツ上

ヲ作り棒ノ先ニ付テ之ヲ 神官コレヲ打振り見物ノ
諸人ニ念戴依テ此名アリ

一花カツミ 是昔ヨリ論アルモノシ凡ソカツミト云フハ
蔣ノ稔名シ其中ニ菖蒲 真蔣ニハ花ナシ蔣ノ
類ニテ花アルモノ即花カツミシ花アヤムカキツクハ
花シヤウブ等皆花カツミト云ヘシ昔實方ノ中將
歌枕ミントテ陸奥ニサゾラヒ行キ玉フ時国
民五月五日アヤム葺コトヲ知ラサリケレハ
如何ニ此国ニハケフノ菖蒲ハ葺ヌゾトノ玉フニ
国人申ヌヤウ凡テ奥州ニハ菖蒲州侍ラスト答ラ
サラハ安積ノ沼ノ花カツミツ葺ケトノ玉フ

以上長明無名抄等ニ出

古今
ミチノクノ安積ノ沼ノ花カツミカワミル人ニ戀ヤ渡ラシ
東路ノ野沢ノカツミ今日ハカリアヤムノ名ツモ借リテケル哉慈鎮

一サルトリノ花 菘菜 サルトリイバラシ 山野ニ多ク生ス
葉ハ柿ニ似テ刺アリ筑紫ノ倍カメイバラト云トソ

一末摘花 紅ノ花シ 紅花ハ末ヨリ咲ケハヤカテ末ヨリ
ツム故ニ名ツツ或記ニ末摘花ハ非ニ紅花ニト云リ 古今
及源氏等ノ歌ヲ得心セヌ故ニ惑説出クルシ
古今
人シレズ思ヘハクルシ紅ノ末ツム花ノ色ニ出ナン
源氏
ナワカシキ色トモナシ何ニコノ末摘花ヲ袖ニフレケン

ワクヒ

辛三

一 繡線菊

木トヤト二種アリトモニ五月紅花ヲナス
真紅淡紅アリ真紅ノモノ可愛花ノ形ハニンジンノ
如ク集リ咲ク元ト山生花ヲ愛シテ今庭ニ植ユ

一 蕙

順ノ和名抄ニ蕙ハ蘭ノ一名シト云リ本邦
蕙ト云モノ自及ノ別種ニシテ芬香ナシ花似蘭
元ト山竹今庭園ニ植テ愛花ヲ白花ノモノ有
又稀ニ黃蕙アリトモニ無香是今本邦竹花
肆ニ専ラ翫フ蕙シ一説蕙ハジャカウ竹ナラント有
此説不合シヤカウ竹ハ羅勒ユアラキシ蕙ノ形ナシ

一 天蓼

四五月白花ヲ開ク梅花ニ似テ好事ノ者葉

去リ類ニイケテ翫ハ梅如シ梅ト云シ其
實一藤ノ内ニ束ナクノユトクナルモノト又扁ヒラメキモノト西
實有依テマタ、ミシミトビト通音勿論シ

一 蚊帳

蚊帳 蚊帳ノ形ニナシテ翫トス其形生ツ名トス
蚊帳ノ形ニナシテ翫トス其形生ツ名トス

一 麥飯

トコトハラストモ復ト聞ユハ論ニ不及翁判ノ句合
麥飯ヤサラハ薄ノ宿ナラテ是定家ノ謔
サラハ薄ノ宿ナラテ外トハツレナキ定家蔓ト諷
其語風ヲ取タル句シムクヲ生ヒタル宿ニハアラテト

云句意其ト聞ユ翁ノ判ニ季ノ沙汰ハ且テ評
セラレス一旬宜シト有リテ勝シ

一 早松茸

早月ノ松茸ハ五月ニ出ルモノ儼秋ノ

一ツタケニ形テモ香モ違ハサルモノ有リ又形ハ少モ

違ハスシテ香且ツラナキモノ有リ是別物ナラン

不可喰フトソ

一 黎莧

此ニ色トモニ夏季ノ柔菜シ 黎ハ春苗

生シ其盛ニ長ス其葉先紅シテ可愛 莧ハ

本州ニ六種アリ和朝ノ莧ハ四種シ赤白斑及

野莧シ馬齒莧ハ別種シ

一 皋月躑躅

五月ニ咲クツシ俳諧サツキトハカリ

シテ通ス文字ハ杜鵑花シ花トモツシトモ断ニ不及

一 柳ノ花

小白花シ葉四時不凋 延喜式ニ賢木

日本紀ニ坂樹ト記セリ

一 美容柳ノ花

一名金糸桃花ハ桃ニ似テ黄シ梅雨

ノ中ニ開ク葉ハ如柳ノ其花心ニ黄鬚アリテ花外ニ

鋪ク金糸ノコトニ俳諧ニハ柳ノ字ヲ云ニ及ハス

只金糸桃共ヒヤウノ花トモスヘシ

一 橘

夏季トスルハ花シ一切ノ柑類皆實ヲ季

橘ハカリ其花ノ香ノナツカレキツ貴セリ依テ
夏季し其實ヲ翫フ旬ハ論ニ不及秋

一菽植^シ 菽ハノラニメシ爾雅ニ菽ハ衆豆ノ総

名トミエタレハ字義ハ尤可し然レトモ俳諧ニ只
世間通俗ノ豆ノ字モ宜シ

一水黽^{スイモウ} 水馬虫し其身細長ク五六分ハカリノ黒虫

し長キ四足アツテ身ハ水ニツカズ水上ヲ駈^ヒコト如馬
依テ水馬ト名付ツ畿内西エニテ塩賣江東見
童シヲニレホト云筑紫ニテアメカメト云其具
地黄奠ノ具し關東ノ方言ケンホツホウ亭環

此虫ツ只水馬ト記セリ水上ノ競馬ト混ス水馬虫ノ
三字ヲ用イハセメテモ可しトセン

一豉虫^{チクムシ} 團扁黒虫豆ホトアリ水上ニ浮旋テ不止

筑紫ニテカイモチカキ江東ノ俗ゴマイリト云按
是独樂マワレノ訛言し脊^セ純^{モウラ}黒^{ウス}腹^{ウス}ハ淡赤
關東ニテ水スミシ又サウトメト云是し然ルニ得テ
水スミシハ水馬ト思ヘル輩多シ去ル夏ノ旬合ニ
水馬ノ題ニテ藻ノ花ヲ休ミ所ヤ水スミレトシ
タル有リ是件ノ取チカヘシ然ツ其句高魚ナリ
テ勝チケリ其魚者ノ俳學ニ疎キコト笑止千万
じシカレ俳諧ト云モノ天地万物ノ洲汰ナレ見聞

ノ不届所を可有是等ノ近キコトハ兼テ詮議シ置ヘキコトシカシ

一 黒鴨

外ノ鴨ハ冬来春帰ル此モノ四季ニアル也其味佳シ依テ夏季トモス十月鴨ノ部ニモ黒鴨ヲ出ス句意ニ依テ季ヲ定ムヘシ

一 子ラニ狩

照射 火串サス 是皆獸狩ニテ夏季トモシハ鹿ヲ射ルニ夜山ノ木蔭ニカリシ焼或ハ小炬ヲ串ニツケテ地ニ投是ヲホグシト云シ書戀ハ鹿火影ニツキテ寄来リ牝牡目ヲ見合ス火ニ照サレテ鹿ノ目ノキラクトニユルヲ的ニシテ射

トシ歌ニモ目見合ス鹿トモヨメリ又サ薩男ノ子ラヒトモヨミ増荒男ガ侍トハ知ラテトモワラ子タリ俱ニ狩人ノコトシ

照射スルハヤニノ末ニ立鹿ノ鳴又頃メニ露ソコホル、健男ガ葉山ノ原ノ木カクレニ松ヲトモシノ鹿ニ告ハヤ

一 蒸比目魚

夏季トスルモノハ若校越前或ハ備前ヨリコレヲ鮫トシテ京大坂ニ出ス其節ヲ季トスルシ冬數多取レハ春多ク来春多ク取レハ初夏京大坂ニ来リ販海濱ノ氣変ニヨルシ近來京師江東ニテ考之春多ク来ル夏ハ且テナシ然レハ是等ノモノ季サメカナラスト知ヘシ

一 津走

是鯽ノ至テ小ナル時西土ノ方言ツハスシ
 關東ニテワカナゴト云フ秋一尺ハカリナルヲ西土ニテ
 メシロニ尺ニチカキク鯽ト呼フ筑紫ニテヤスト云
 東土ニテハイナタト云フ中冬ノ頃ヨリ長シテ三尺
 最大キナルハ四尺鯽ト名付ク其肉ヲ曝乾タルヲ
 鯽ノ條ト云阿蘭陀人コレヲ甚ク賞メ羅加年ト
 稱ス凡此臭サキヨリ老ニ至テ名ヲ改出世昇
 進ノモノナル故ニ貴賤歳末年始ノ嘉祝ニ用之
 初メ江海ニ在テ徐大洋ニ出東北ノ海ヨリ西
 對列ニ巡リ至ルトソ對列ヨリ又中華ノ海ニ
 入モノ甚ク大ク甚ク老ス依テ老臭ノ名アリ
 師莫ノ文字ヲ用ユルモ此意ト云ハ

一 水海鯽

于魚ニシテ西土ニテ風海鯽ト云モノ
 海鯽ノ小ニノ肉ウスキモノシ夏秋京師及畿
 内ニテ賞之細ク刻ミ和酒或ハ水者トス
 是ヲ云ナラン

一 水鯽

エソノ字倍字シ正字不詳エソハ七八寸
 尺ハカリ有テカマスニ似タリ性細骨多ク佳
 品ナラス是ヲ膾トスルニ細ク切り水ニ入テヨク
 モニ其性キ油ヲ去テ和醋佳品トナル
 是エソノ料理方シ是ヲ云ルニヤ

六月

一忌日ノ御飯ゴハン 朔日 是月次神イハヒノカミ今食ノ御神事ヲ

今日令始玉イハヒノカミフシ忌日トハ火ヲ殊ニ新タニスル日ト云
義イハヒノカミし内膳司ヨリ奉ルヲ大床子ノ御座ニテ供之
景行天皇ノ御時ヨリ始ルト云ニ

一氷室ノ貢ニツキ 山城国氷室山名所イハヒノカミ大和ニモ同名有リ謹ハ

丹波国桑田郡氷室山ト作レリ六月朔日献氷ヲト
年中行事ニ載タリ

一六月會 四日 傳教大師ノ御忌イハヒノカミ山門エ勅使アリ

ノク上

ノク上

一 神今食 十日 是伊勢太神宮ヲ内裏ニ勸請有テ
天子自ラ神饌ヲ令供玉フ御神事シ 打後ノ
箱逆枕八重疊ナト云御規式アリ

一 解^ゲ斎^{サイ}ノ御粥^ミ 十二日 神今食ノ翌日天子エ献^ル御粥シ

一 祇園會 ^{七日} 祭禮四條通寺町ニ御旅所有テ

七日ニ神輿ヲ出ス則御祭禮シ然ノ十四日ニテ
御旅居シ七日十四日ノ御祭トモニ生土^{ラフスナ}ノ所ニ作^ラニ
鉾^ハ山^ヲ挽^ク之^ヲ 其番數ハ書ニ出タレハ畧^ス之^ヲ 其假
山ノ幕飾リ及人形等 古代ノ奇物ニテ尤重貴ノ物
此祭禮圓融院ノ天禄元年ニ始^ル 中古恒例ニシテ

高倉ノ四條通東北ニ向テ將軍家ノ構ニ御棧鋪ヲ
雜職其前ニ伺公^ノコレヲ警言固ス甚ク嚴重ナリ
十八日^ヲ神輿^ニ洗ノ御神事ト云六日ノ夜ヨリ此夜
至上^ハ三條ヲ限リ下五條ニテ毎夜河原ノ納涼
都下ノ貴賤ハ云ニ不及畿内遠國ノ遊客成群
數千ノ茶店河上ニ泛^レ床^ヲ 會^ハ宴^ス花洛年中
第^一壯觀シ祇園ノ神社所祭ノ神素盞烏ノ尊
稻田姬三女五男^{素盞烏ノ御子ナリ} 往昔聖武天皇天平五
年^余吉備公ニ播州廣峯ノ社ニ令^レ祭^レ之^ヲ 後貞觀
十一年ニ今ノ洛東八坂ノ郷ニ奉^レ遷^ト云ニ 神紋ニ瓜ノ
紋^ヲ付^ク俗胡瓜^{キウリ}シト稱^レテ祇園氏子ハ胡瓜ヲ不
食^甚誤^シトソ瓜ノ紋ハ木瓜^{ホケ}ノ花ノ形^チニシテ織田

祇園

等

家ノ紋じ織田信長公當社再興アツテ神輿及
神器悉家紋ヲ付ル、ト云ミ神紋ニアラストソ

一 祇園臨時ノ祭 十音 御禊ハライ 宣命殿上ノ五位東遊ヲ

奉ル天治元年ヨリ始ルトソ天延三年東遊ノ歌ニ

神ノ代ノ八坂ノ里ト今日ヨリソ君カ千年ヲカソハ始ル

一 相国寺ノ懺法 十七日 大門ノ閣上ニテ行ル松風ト云

鉢ヲ打ツ此寺ノ珍寶じ禪五山ノ一區足利

義満公ノ寺じ上立賣烏丸通ニアリ

一 座頭ノ涼 十九日 是座頭ノ行ヒ遊樂ニアラス

涼ニ積塔トテ二月十六日ト今日執行ス之ラ是又雨
夜ノ親王ノ母公追福ノ遺風じトソ

一 鷹羽ツカニ習フ 六月ノ節じ 廣州化堂ト成ル六月ノ中

禮記月令ニ出

一 御手洗詣ニ 十九日ヨリ 下加茂ノ社ニ 貴賤群詣ス 紉タス

ノ涼ト云則是じナゴシノ袂アリ 和ナ 讎ゴシ 婁ナ 越ゴシ

而義じ神祇ノ部ニ委記

一 鞍馬ノ竹切 廿日 古記曰昔此山間ニ有大蛇一諸民

驚怖シ 且ツ為ニ 之ガ 隕ス 命ヲ 者多シ 時ニ峯延法師

ト云修驗ノ僧鞍馬寺在住し於是峯延誦多
門天ノ咒ヲ伏ス之ヲ大蛇忽自ラ所斬死ス藤原ノ
伊勢人來テ裁判之ヲ蛇骸ヲ靜原山ニ捨シム
人數五十人ヲ以テ運之ヲト云ミ其所ヲ今ニ至テ
大蟲ノ嶽ト号ス竹切ハ其大蛇ノ斬レタルヲ標セル
行ヒし鞍馬寺則中太夫藤原ノ伊勢人ノ建立シトソ

一天滿ノ御被 廿五日 大坂天滿天神ノ祭禮也當社

村上天皇ノ天曆年中奉詔ヲ菅神ヲ勸請スト
云ミ每六月廿五日戎嶋ノ御旅所ニ神輿ヲ出ス
其行還川船し數万ノ挑灯群集ノ遊船亦比
類ナキ壯觀し且内地車囃物假山狂言種

アリ此祭禮ヲ車樂ト稱ス世俗戲舞ニダシジリ
ミイト囃スコトアリ此祭禮ヨリ出タルナラン

一節折 廿日夜 天子ノ御長ケノ尺寸ヲ竹ニテ取主殿

寮ノ宮主神被之ヲ女官節折ノ命婦御長ヲ
取ル役し皆録ヲ給フ十二月ト西度以上公事根
源ニ出ツ活法ノ書ニ廿日ト記セルモノ誤シ

一菅貫 茅ノ輪 形代 皆被ノ具ニシテ菅貫ト茅ノ

輪ハ二名一物し菅及茅ニテ輪ヲ作りコレヲ
越ヘクグリテ後河エ捨レハ邪氣災難ヲハライ志
形代ト云ハ茅又麻ニテ人形ヲ作り以之ヲ搥

フカ上

ト云

身ヲ撫テ河エ捨ラズ云し依テ撫物トモ云又麻
葉ヲ幣ニ用イテ茅ノ輪ヲクルルニ手ニモ持ツ故ニ麻
ヲハラエ州ト名ツク

新千載
年ナニノ半ヲ令宵越ル輪ニ管貫カケテセソレハ經又
後拾遺
思フコトミナツキ子トテ麻ノ葉ヲキリニ切テモ後ツル哉

一サラシ井 六月ニ井ヲ浚タルヲ云し又新井トモ云

晒井ノ木ノ下蔭ニ行ミレハ衣手寒シ蟬ハナケトモ

一麻地酒 肥後ノ名物し其製スル時節ヲ季トスルカ

一奈良漬 是其漬ケルヲ云句ハ夏只名目ハカリハ無季し

一名乘菜 濱藻し衣通姫ノ歌ヨリ名乘菜藻

ズト日本紀ニニユ是ホダハラし名乘菜ト云時ハ

夏ホダハラト云ハ正月ノ飾物ヲ春勿論し衣通姫

トコレヘニ君モアエヤモイサナトリ海ノ濱藻ノヨル時ク

又此藻ヲ神馬藻ト書ルハ不可騎ノ字義しトソ

一鷺草 二種アリ水中ニ生ノ葉石菖ノ如クサ短ク

嫩ニ葉ノ中ニ莖ヲ抽テ莖頭ニ白花ヲ開クサナカラ

小白鷺ノ如シ又一種ハ苗葉一面ニ地ニ付テ小白花ヲ

開是又白鷺ニ似テ右ノ花ヨリモ小シ地ニ付テ能ク

ハヒコルヲ以テ好事ノ者芝ニカヘテ植之ヲ依テ是ヲ

鷺草トモ云芝ヨリモ漢

一 虎ノ尾 夏白花ヲ開キテ作穂ヲ 獸ノ尾ニ似タリ 紅
白相交ルモノアリ 又秋緑花ヲ開キテ葉厚キモノ
アリ 又忍竹ノ類ニテ無花ノモノ有 皆虎ノ尾ト称ス

一 風蘭 不用土ヲ 木ノ枝等ノ日蔭ニ 釣リツキテ能生立
風ヲ好テ茂盛ス 依テ名トストソ 花葉蘭ニ似小
五六月開花ヲ 微香有 蘭ノ香ノウスキモノシ

一 釣鐘竹 花紫色 下ニ垂レテ 鐘ツツルニ似タリ 又
白花淡紫ノモノアリ 葉ハ如牡丹ノ

一 玉簪 キボウシ 五六月 莖ヲ 抽テ 白花ヲ開ク 大小アリ

大玉簪ハ葉甚タ大シ 二種トモニ葉ノ形ヲ 宝珠
似タレハ 俗擬宝珠ト称ス

一 麒麟竹 キリンササ 和名抄竹 史等ニ不載 今竹花肆ニアル
モノ葉ハ蒲公ニ似テ長ク 本ニテ割ニアリ 夏
淡紅ノ花穂ヲナス 又虎ノ尾竹ノ形ニ無花ノモノアリ

一 射干 ヤカン 是櫓扇シ 又鳥扇トモ云 花黄ツ帯
赤レ葉ハ鳥ノ翅ニ似タリ

一 赤竹 地錦アカ竹ト訓ス 田野及寺院ノ階砌
ノ間ニ地ニ付テ生ス 小竹シ 六月小赤花ヲ開ク 莖

モ赤シ葉ハスヘリ寛ニ似テ青紫シ帯フツクニキニ
コレヲ水竹ト記セルハ誤ナルヘシ

一 葛ノ花

本竹其外竹史ニ七八月ト記セリ然ルニ
本邦山間ニアルモノ皆夏花アリ漢和土地ノ
異ナラン活法ノ書八月ニモ葛ノ花ヲ出セリ然レ
葛ツ秋ニ用テハ葉ノウヘシ新古今ニ

神ナミノ三室ノ山ノ葛カワラ裏吹カヘス秋ニ来ニケリ
古歌ルテ秋風ニ葛ノ葉ノ裏ト讀リ然ルツ芭蕉翁

ハ葛ノ葉ノツモテニセケリ今朝ノ霜

一 毛虫

是春シ活法ノ書夏季トスモ夏盛ニアル

モノナレトモ其初メヲ季ニ用ルカ論シ

一 夏ブレ

鯉節シ六月松魚カツヲヲ製メ節ニ作ルシ

一 水葵

本名著アサ又鳧葵トモ水鏡トモ云葉ハアサ

似テ夏黄花シ閑ク又白花ノモノ有水中ニ生
立テ潔イサヨシ人家近キ池ニハ生セス依テ見知レル人
稀シコナギツ水葵トシホエタル葦マコナギアリ浮葉
ハ秋シ碧石花シ不可混ス

篋 鱸輪 上 終



